



IM-FormaDesigner for Accel Platform デザイナヘルプ

変更年月日	変更内容
2012-10-01	初版
2012-11-01	第2版 以下を追加・変更しました。 ■ 入力系画面アイテムのプロパティへの属性（フォント等への装飾機能）追加
2013-02-01	第3版 以下を追加・変更しました。 ■ 画面アイテムのプロパティの配置変更
2013-04-01	第4版 以下を追加・変更しました。 ■ 「フォーム・デザイナ」画面のレイアウト変更 ■ 明細テーブルにプロパティ（列の表示タイプ）追加
2013-08-20	第5版 以下を追加・変更しました。 ■ 「アプリケーション種別・画面アイテム一覧」 ■ 画面アイテム「BI表示アイテム」

変更年月日	変更内容
2014-01-01	第6版 以下を変更しました。 「 アプリケーション種別・画面アイテム一覧 」 以下の「表示・入力タイプ（列項目）」の説明を変更しました。 入力アイテム - 明細テーブル（列プロパティ（隠しパラメータ）） ボタンアイテム - ボタン（登録） - ボタン（次へ） - ボタン（戻る） - ボタン（一覧へ戻る） - ボタン（一時保存） 汎用アイテム - 隠しパラメータ - スクリプト - ボタン（イベント） - インラインフレーム - BI表示アイテム 表示アイテム - 見出し - 横線 - 縦線 - 正方形/長方形 - イメージ - ラベル ワークフローアイテム - 案件情報表示 - 添付ファイル表示 - フロー画像表示 - 処理履歴表示 - 確認履歴表示 - 印影表示 以下の「アイテム名」の説明を変更しました。 入力アイテム - 明細テーブル - ファイルアップロード ボタンアイテム - ボタン（登録）

- 「 [アプリケーション種別・画面アイテム一覧](#) 」

以下の「表示・入力タイプ（列項目）」の説明を変更しました。

入力アイテム

- 明細テーブル（列プロパティ（隠しパラメータ））

ボタンアイテム

- ボタン（登録）
- ボタン（次へ）
- ボタン（戻る）
- ボタン（一覧へ戻る）
- ボタン（一時保存）

汎用アイテム

- 隠しパラメータ
- スクリプト
- ボタン（イベント）
- インラインフレーム
- BI表示アイテム

表示アイテム

- 見出し
- 横線
- 縦線
- 正方形/長方形
- イメージ
- ラベル

ワークフローアイテム

- 案件情報表示
- 添付ファイル表示
- フロー画像表示
- 処理履歴表示
- 確認履歴表示
- 印影表示

以下の「アイテム名」の説明を変更しました。

入力アイテム

- 明細テーブル
- ファイルアップロード

ボタンアイテム

- ボタン（登録）

変更年月日	変更内容
	ボタン (次へ)

	ボタン (戻る)
--	--

	ボタン (一覧へ戻る)
--	---

	ボタン (一時保存)
--	--

汎用アイテム

- スクリプト
- ボタン (イベント)
- インラインフレーム
- BI表示アイテム

表示アイテム

- 見出し
- 横線
- 縦線
- 正方形/長方形
- イメージ
- ラベル

ワークフローアイテム

- 案件情報表示
- 添付ファイル表示
- フロー画像表示
- 処理履歴表示
- 確認履歴表示
- 印影表示

以下のアイテムの「行のコピー」、「行の挿入」、「行の削除」の説明を追加しました。

入力アイテム

- 明細テーブル

以下のアイテムの「表示スタイル」に、「折り返し」の説明を追加しました。

入力アイテム

- 文字列
- 複数行文字列
- 数値
- 関数
- 日付
- 期間
- 一覧選択
- 明細テーブル
- チェックボックス
- ラジオボタン
- セレクトボックス
- リストボックス
- ファイルアップロード

共通マスタアイテム

変更年月日	変更内容
	■ ユーザ選択 ■ 組織選択 ■ 組織・役職選択 ■ 所属組織選択 汎用アイテム ■ 採番
2014-04-01	第7版 ラベルの「ラベルの内容の編集時に利用できるツールバーと各部の説明」を変更しました。
2014-09-01	第8版 以下を変更しました。 ■ 「アプリケーション種別・画面アイテム一覧」 以下のアイテムの「詳細設定」に、「利用方法」、「子画面サイズ」、「Forma画面設定」の説明を追加しました。 ボタンアイテム ■ ボタン（次へ） 以下のアイテムの「詳細設定」に、「利用方法」、「クリック時の処理」、「確認ダイアログ」、「確認メッセージ」の説明を追加しました。 ボタンアイテム ■ ボタン（次へ）
2014-12-01	第9版 以下を変更しました。 ■ 入力アイテム 一覧選択（product_72_itemSelect）に、「簡易検索機能」、「詳細検索機能」の説明を記載しました。 ■ 入力アイテム 関数（loginGroup）が非推奨のため、説明を追加しました。
2015-03-01	第10版 以下のアイテムを削除しました。 ■ 画面アイテム「ツリー」 ■ 画面アイテム「スケジュール」
2015-04-01	第11版 以下のアイテムを追加しました。 ■ 画面アイテム「リッチテキストボックス」
2015-08-01	第12版 以下を変更しました。 ■ 「スマートフォン設定」追加に伴い、「フォーム・デザイナヘルプ（IM-FormaDesigner）」に「スマートフォン設定」の説明を追加しました。 ■ 下記のアイテムの説明に、実行中のクライアントを識別するための関数の説明を追加しました。 ■ スクリプト（標準、IM-Workflow） ■ ボタン（イベント）（標準、IM-Workflow）

変更年月日	変更内容
2015-12-01	第13版 画面アイテム「リッチテキストボックス」の「リッチテキストボックス設定」の以下の項目を変更しました。 「ツールバー縦位置」「ツールバー横位置」を削除 「メニューバー」の説明を追加
2016-04-01	第14版 以下のアイテムの「スクリプト」に、クライアントサイドスクリプトAPIの説明を追加しました。 汎用アイテム - スクリプト - ボタン（イベント）
2016-08-01	第15版 以下のアイテムに再申請・承認時の一時保存に関する説明を追加しました。 - 画面アイテム「ボタン（一時保存）」 以下のアイテムに備考の最大文字数、カラムサイズの変更に関する説明を追加しました。 - 画面アイテム「ファイルアップロード」 以下を変更しました。 - IM-BPM のリリースに伴い、BIS作成種類「BPM」を「BISフロー」に変更しました。
2016-12-01	第16版 以下のアイテムの取得値設定の対象アイテムに関する説明を追加しました。 - 画面アイテム「一覧選択」 以下のアイテムに制限サイズの設定の説明へのリンクを追加しました。 - 画面アイテム「ファイルアップロード」

変更年月日	変更内容
2017-04-01	第17版 以下のアイテムに再申請・一時保存時の表示値に関する説明を追加しました。 ■ 所属組織選択 以下を追加しました。 ■ 各画面アイテムのプロパティ「フィールド初期値」に承認画面におけるフィールド初期値の扱いに関する説明を追加しました。 ■ 「「フォーム・デザイナー」画面の各部の名称と機能」にタブ切替利用時のタブインデックスの指定に関するコラムを追加しました。 以下のアイテムに関数やクエリのパラメータの参照元に利用できないアイテムの説明を追加しました。 ■ 関数 ■ 一覧選択 ■ 明細テーブル ■ チェックボックス ■ ラジオボタン ■ セレクトボックス
2017-08-01	第18版 以下を変更しました。 ■ フォーム・デザイナーの「Undo・Redo」機能の追加に伴い、「「フォーム・デザイナー」画面の各部の名称と機能」を変更しました。 画面アイテム「リッチテキストボックス」の「リッチテキストボックス設定」の以下の項目を変更しました。 ■ 「画像挿入機能の利用」の説明を追加
2017-12-01	第19版 以下のアイテムに入力時の日付形式に関する説明を追加しました。 ■ 日付 ■ 期間 ■ 関数 ■ 一覧選択 ■ 明細テーブル 以下を変更しました。 ■ 各画面アイテムの「ラベル」の説明を変更しました。 ■ 各画面アイテムの「表示フォーマット」の説明を変更しました。 ■ 画面アイテム「ボタン（一覧へ戻る）」の説明を変更しました。 ■ 「「フォーム・デザイナー」画面の各部の名称と機能」に IM-BIS、およびアクション設定に関する説明を追加しました。 ■ 「条件式関数」に型変換に関するコラムを追加しました。

変更年月日	変更内容
2018-04-01	第20版 以下のアイテムを追加しました。 - 画面アイテム「ボタン（コピー新規）」 以下を変更しました。 - 画面アイテム「ボタン（ファイルアップロード）」に「画像プレビュー表示」、「プレビュー幅」、「プレビュー高」の説明を追加しました。
2018-08-01	第21版 以下を変更しました。 各画面アイテムの「表示フォーマット」の説明を変更しました。
2018-12-01	第22版 以下のアイテムの「表示スタイル」に、「iAP UIデザインモード」の説明を追加しました。 - 入力アイテム - 文字列 - 複数行文字列 - 数値 - 関数 - 日付 - 期間 - 一覧選択 - チェックボックス - ラジオボタン - セレクトボックス - リストボックス - ユーザ選択 - 組織選択 - 組織・役職選択 - 所属組織選択 - 採番
2021-04-01	第23版 以下を変更しました。 画面アイテム「ファイルアップロード」に「1ファイルあたりのサイズ（キロバイト単位）」、「許可する拡張子」、「別ウィンドウ表示」、「ファイル一覧の並び順」の説明を追加しました。
2021-08-01	第24版 以下を変更しました。 フォーム・デザイナの「SharedResource設定」機能の追加に伴い、「「フォーム・デザイナー」画面の各部の名称と機能」を変更しました。

変更年月日	変更内容
2022-12-01	第25版 以下を変更しました。 - 画面アイテム「ボタン（処理モダル）」に処理後の遷移先を指定する説明を追加しました。 - 画面アイテム「ボタン（一時保存モダル）」に処理後の遷移先を指定する説明を追加しました。 以下のアイテムに「項目幅の自動調整」と「ソート」の説明を追加しました。 - 入力アイテム - 一覧選択 - 明細テーブル（列タイプ（一覧選択））
2024-04-01	第26版 以下を変更しました。 画面アイテム「ファイルアップロード」にダウンロード時のファイルサイズに関する説明を追加しました。
2025-04-01	第27版 以下を変更しました。 - 各画面アイテムにおけるプロパティ「フィールド初期値」に対し、承認画面におけるフィールド初期値の扱いに関する説明を更新しました。 - 画面アイテム「アノテーション」の利用できるバージョンに関する説明を追加しました。 - フォーム・デザイナの「スクリプトエディタ」機能の追加に伴い、「「フォーム・デザイナ」画面の各部の名称と機能」を変更しました。 - フォーム・デザイナの「ヘッダーを固定」機能と「ボタン表示」機能の追加に伴い、「「フォーム・デザイナ」画面の各部の名称と機能」を変更しました。 以下のアイテムに「スクリプトエディタで開く」の説明を追加しました。 - 汎用アイテム - スクリプト - ボタン（イベント） 以下のアイテムの「詳細設定」に、「ヘッダーに表示」の説明を追加しました。 - 画面アイテム「ボタン（登録）」 - 画面アイテム「ボタン（次へ）」 - 画面アイテム「ボタン（戻る）」 - 画面アイテム「ボタン（一覧へ戻る）」 - 画面アイテム「ボタン（一時保存）」 - 画面アイテム「ボタン（コピー新規）」 - 画面アイテム「ボタン（イベント）」

各アプリケーション種別で利用できる画面アイテムは、以下の通りです。

入力アイテム

画面アイテム	Forma（標準）	Forma（IM-Workflow）	BIS（BISフロー）	BIS（ワークフロー）
文字列	✓	✓	✓	✓
複数行文字列	✓	✓	✓	✓
数値	✓	✓	✓	✓
関数	✓	✓	✓	✓
日付	✓	✓	✓	✓
期間	✓	✓	✓	✓
一覧選択	✓	✓	✓	✓
明細テーブル	✓	✓	✓	✓
チェックボックス	✓	✓	✓	✓
ラジオボタン	✓	✓	✓	✓
セレクトボックス	✓	✓	✓	✓
リストボックス	✓	✓	✓	✓
ファイルアップロード	✓	✓	✓	✓
グリッドテーブル	✗ [1]	✗ [1]	✓	✓
リッチテキストボックス	✓	✓	✓	✓
スプレッドシート [2]	✓	✓	✓	✓

[1] [\(1, 2\)](#) 「グリッドテーブル」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

[2] 「スプレッドシート」は、IM-BIS、IM-Spreadsheetを導入している環境であればご利用いただけます。

ボタンアイテム

画面アイテム	Forma（標準）	Forma（IM-Workflow）	BIS（BISフロー）	BIS（ワークフロー）
ボタン（登録）	✓	✓	✗	✓
ボタン（次へ）	✓	✓	✓	✓
ボタン（戻る）	✓	✓	✓	✓

画面アイテム	Forma（標準）	Forma（IM-Workflow）	BIS（BISフロー）	BIS（ワークフロー）
ボタン（一覧へ戻る）	✓	✓	✓	✓
ボタン（一時保存）	✓	✓	✗	✓
ボタン（BISフロー登録）	✗	✗	✓	✗
ボタン（コピー新規）	✗	✓	✓	✓

共通マスタアイテム

画面アイテム	Forma（標準）	Forma（IM-Workflow）	BIS（BISフロー）	BIS（ワークフロー）
ユーザ選択	✓	✓	✓	✓
組織選択	✓	✓	✓	✓
組織・役職選択	✓	✓	✓	✓
所属組織選択	✓	✓	✓	✓

汎用アイテム

画面アイテム	Forma（標準）	Forma（IM-Workflow）	BIS（BISフロー）	BIS（ワークフロー）
隠しパラメータ	✓	✓	✓	✓
スクリプト	✓	✓	✓	✓
ボタン（イベント）	✓	✓	✓	✓
採番	✓	✓	✓	✓
インラインフレーム	✗ [3]	✗ [3]	✓	✓
BI表示アイテム	✗ [4]	✗ [4]	✓	✓
ボタン（インポート）	✗ [3]	✗ [3]	✓	✓
ボタン（エクスポート）	✗ [3]	✗ [3]	✓	✓
アノテーション	✗	✗ [5]	✗ [5]	✗ [5]

[3] (1, 2, 3, 4, 5, 6) 「インラインフレーム」、「ボタン（インポート）」、「ボタン（エクスポート）」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

[4] (1, 2) 「BI表示アイテム」は、Jaspersoft機能強化モジュールを導入している環境でご利用いただけます。

[5] ([1](#), [2](#), [3](#))

画面アイテム「アノテーション」は、IM-Annotation for Accel Platformを導入している環境であればご利用いただけます。

IM-Annotation for Accel Platformは 2014 Winter(Iceberg) から 2017 Winter(Rebecca) まで提供していましたが、2018 Spring(Skylark) に機能が廃止されました。機能の廃止に伴い、画面アイテム「アノテーション」が削除されました。

2014 Winter(Iceberg) から 2017 Winter(Rebecca) までの環境では、現行どおり 画面アイテム「アノテーション」を利用する事は可能です。

弊社テクニカルサポートセンターでの問合せ対応も引き続き可能です。

表示アイテム

画面アイテム	Forma（標準）	Forma（IM-Workflow）	BIS（BISフロー）	BIS（ワークフロー）
見出し	✓	✓	✓	✓
横線	✓	✓	✓	✓
縦線	✓	✓	✓	✓
正方形／長方形	✓	✓	✓	✓
イメージ	✓	✓	✓	✓
ラベル	✓	✓	✓	✓

WFアイテム

画面アイテム	Forma（標準）	Forma（IM-Workflow）	BIS（BISフロー）	BIS（ワークフロー）
確認履歴表示	✗	✓	✗	✓
案件情報表示	✗	✓	✓	✓
添付ファイル表示	✗	✓	✓	✓
処理履歴表示	✗	✓	✓	✓
フロー画像表示	✗	✓	✓	✓
印影表示	✗	✓	✓	✓

入力アイテム

文字列

画面アイテム「文字列」は、文字や数値などを入力するためのアイテムです。
改行を含む長い文章は入力できません。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- [チェックフォーマットの記述例](#)

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。

日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携 (*)
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力できませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

テキスト

表示タイプ：参照

テキスト

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

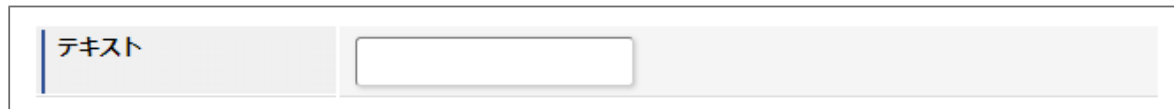
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上

からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

複数行文字列

画面アイテム「複数行文字列」は、改行を伴う文字や数値などを入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。

項目に入力されていない場合はチェックしません。

スペースは入力されているものとして扱われます。

最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

■ チェックフォーマットの記述例

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携 (*)
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

フィールド高

入力欄の表示の高さをピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

表示タイプ：参照

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

数値

画面アイテム「数値」は、金額や個数などの数値を入力するためのアイテムです。

前にゼロを付加する"000123"のようなコード項目には利用できません。

基本設定

[前]ラベル / [後]ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

[前]ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

[後]ラベルに設定した名称を、入力欄の右に表示します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
 - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
 - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
 - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
 - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
 - 「[設定ファイルリファレンス](#)」 - 「[数値形式マスタ](#)」 で用意した全てのフォーマット



コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
<https://issue.intra-mart.jp/issues/27791>

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。



注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「[クライアントサイド JavaScript](#)」 - 「[ImDecimalFormatter](#)」を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「[設定ファイルリファレンス](#)」 - 「[数値形式マスタ](#)」から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123
	■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123
	■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123,456,789.123

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
アカウント設定	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している - 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 123456789,123 123 456 789,123
テナント設定	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している - 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 123456789,123 123.456.789,123
システム設定	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している - 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123'456'789.123」の場合の例です。 123456789.123 123'456'789.123

 **コラム**

クライアントサイドスクリプトAPIにおいて、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
 チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
 チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
 (「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
 ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
 同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
 そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
 チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
 ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
 日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
 セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
 「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
 初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携 (*)
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録
Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
入力できませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

数値	0
----	--------------------------------

表示タイプ：参照

数値	0
----	--------------------------------

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。

数値	0
----	--------------------------------

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

関数

画面アイテム「関数」は日付や数値の計算や関数を利用して処理するためのアイテムです。

“+”や“-”などの演算子や、IM-FormaDesigner for Accel Platformで用意している各種関数を利用することができます。

基本設定

[前]ラベル / [後]ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

[前]ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

[後]ラベルに設定した名称を、入力欄の右に表示します。

式

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。

他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」(*)で指定します。

固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「"」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

利用できる演算子、関数

- [演算子](#)
- [文字列関数](#)
- [条件式関数](#)
- [数値系関数](#)
- [日付関数](#)
- [ユーザ情報関数](#)

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。

利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列

- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値

- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付

- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ

- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
 - 2017Summerまでの表示フォーマットを無効にしたときと同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
 - 2017Summerまでの表示フォーマットを有効にしたときと同じ動作です。

- アカウント設定
 - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
 - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
 - 「[設定ファイルリファレンス](#)」 - 「[数値形式マスタ](#)」 で用意した全てのフォーマット

 コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
<https://issue.intra-mart.jp/issues/27791>

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。

 注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「[クライアントサイド JavaScript](#)」 - 「[ImDecimalFormatter](#)」 を参照してください。

 注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「[設定ファイルリファレンス](#)」 - 「[数値形式マスタ](#)」から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123 ■ 123,456,789.123

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
3桁カンマ・小数点ピリオド	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している - 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	123456789.123 123,456,789.123
アカウント設定	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している - 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 123456789,123 123 456 789,123
テナント設定	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している - 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 123456789,123 123.456.789,123
システム設定	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している - 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123'456'789.123」の場合の例です。 123456789.123 123'456'789.123

 **コラム**

クライアントサイドスクリプトAPIにおいて、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「[一般ユーザ操作ガイド](#)」-「[日付と時刻の形式を設定する](#)」を参照してください。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかを確認します。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかを確認します。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- [チェックフォーマットの記述例](#)

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかを確認します。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかを確認します。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。

(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)

ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力できませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

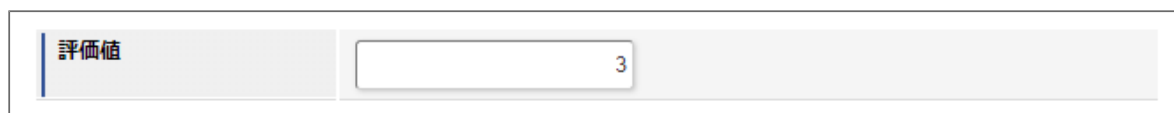
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

日付

画面アイテム「日付」は、1つの日付を入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「[一般ユーザ操作ガイド](#)」-「[日付と時刻の形式を設定する](#)」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。
アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。

日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

日付



31

表示タイプ：参照

日付

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。

日付



31

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

期間

画面アイテム「期間」は、開始日・終了日等の一定期間を表す日付を入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。

指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。

詳細は「[一般ユーザ操作ガイド](#)」-「[日付と時刻の形式を設定する](#)」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。

アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

各設定項目の[始]は、期間の開始日、[終]は、期間の終了日に対応します。

詳細設定

各設定項目の[始]は、期間の開始日、[終]は、期間の終了日に対応します。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。

日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
 - 前処理
 - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

セパレータ

2つの日付の入力欄の間に表示する期間の範囲を表す文字を設定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力できませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

期間

2012/12/21

31

-

2012/12/21

31

表示タイプ：参照

期間

2012/12/21

-

2012/12/21

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。

期間	2012/12/21	31	-	2012/12/21	31
----	------------	----	---	------------	----

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

各設定項目の[始]は、期間の開始日、[終]は、期間の終了日に対応します。

セパレータスタイル

セパレータの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

一覧選択

画面アイテム「一覧選択」は、データベースから入力値を検索して入力するためのアイテムです。

外部連携の設定を行うことで、一覧選択を実行することができます。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
 - 2017Summerまでの表示フォーマットを無効にしたときと同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
 - 2017Summerまでの表示フォーマットを有効にしたときと同じ動作です。
- アカウント設定
 - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
 - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
 - 「[設定ファイルリファレンス](#)」 - 「[数値形式マスタ](#)」で用意した全てのフォーマット



コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
<https://issue.intra-mart.jp/issues/27791>

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。



注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「[クライアントサイド JavaScript](#)」 - 「[ImDecimalFormatter](#)」を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「[設定ファイルリファレンス](#)」 - 「[数値形式マスタ](#)」から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。

以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している - 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	123456789.123 123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している - 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	123456789.123 123,456,789.123
アカウント設定	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している - 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 123456789,123 123 456 789,123
テナント設定	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している - 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 123456789,123 123.456.789,123
システム設定	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している - 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123'456'789.123」の場合の例です。 123456789.123 123'456'789.123



コラム

クライアントサイドスクリプトAPIにおいて、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。

指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。

詳細は「[一般ユーザ操作ガイド](#)」-「[日付と時刻の形式を設定する](#)」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。

アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。

入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。

項目に入力されていない場合はチェックしません。

スペースは入力されているものとして扱われます。

最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。

スペースは入力されているものとして扱われます。

最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。

設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

■ [チェックフォーマットの記述例](#)

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。

項目に入力されていない場合はチェックしません。

「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。

最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。

「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。

最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。

チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。

チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。

(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)

ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

外部連携

データソース名

データソース定義で定義済みのクエリー一覧から、使用するクエリを選択します。

クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

一覧選択画面

検索アイコンをクリックした際に表示する選択できる項目一覧のレイアウトを設定します。

- 画面タイトル
 - 別画面として表示する画面のタイトルを入力します。
- 簡易検索機能
 - チェックがオンの場合、一覧選択画面上で簡易検索機能を利用できるようにします。
- 詳細検索機能
 - チェックがオンの場合、一覧選択画面上で詳細検索機能を利用できるようにします。
- 検索結果表示（初期表示時）
 - チェックがオンの場合、初期表示時に検索結果を表示します。
対象データ件数が多いときの初期表示時のパフォーマンスを考慮し、初期表示時に検索結果を表示させたくない場合に設定します。
- 項目幅の自動調整
 - チェックがオンの場合、検索結果表の列の項目幅が表の幅に収まるように自動調整をします。
チェックがオフの場合、検索結果表の列の項目幅を自動調整せずに、一定の幅で表示します。
表の幅に収まらない場合はスクロールバーを表示します。
- 初期表示のソート順
 - 初期表示時の検索結果表のソート対象項目と並び順（昇順/降順）を指定します。
- 非表示項目、一覧表示項目
 - クエリの取得値の設定項目のうち、一覧に表示する項目を「一覧表示項目」の枠に、一覧に表示しない項目を



コラム

一覧選択画面での簡易検索機能は、出力値に設定されているすべての「文字列型」の列に対して部分一致で行います。

一覧選択画面での詳細検索機能は、列毎に詳細な検索をすることができます。



注意

IM-FormaDesigner 2022Winter から項目幅の自動調整と初期表示のソート順の設定を追加しました。

- IM-FormaDesigner 2022Spring 以前から、アップデートして、定義情報を変更しない状態の動作は、2022Spring 以前と変更ありません。
「[画面設計書出力](#)」での出力値は空白で出力されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義済みのクエリー一覧から、使用するクエリを選択します。

クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

■ 条件項目

データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。

同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」(※)を指定します。

任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「"」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

■ 利用できる演算子、関数は以下の通りです。

- [演算子](#)
- [文字列関数](#)
- [条件式関数](#)
- [数値系関数](#)
- [日付関数](#)
- [ユーザ情報関数](#)
- [ワークフロー関数\(申請情報\)](#)
- [ワークフロー関数\(案件情報\)](#)

取得値設定

選択したクエリで取得するデータのどの取得項目を画面アイテムに表示するかを設定します。

1. ラジオボタン

「一覧選択」の入力欄に表示する値を設定します。

取得項目が1つの場合は、変更できません。

2. 取得値を表示する画面アイテム

フォーム上の他の画面アイテムに取得するデータを表示する場合に、セレクトボックスからフィールド識別名で設定します。

- 取得値に設定できるアイテム
 - 文字列 (product_72_textbox)
 - 複数行文字列 (product_72_textarea)
 - 数値 (product_72_number)
 - 日付 (product_72_date)

- 期間 (product_72_term)
- 一覧選択 (互換用) (product_72_itemSelect)
- 隠しパラメータ (product_72_hidden)

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名 (列名) として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名 (論理名) として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。

日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値 (送信値) を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携 (*)
 - 前処理
 - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力できませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

ラベル	0	
-----	--------------------------------	---

表示タイプ：参照

ラベル	0
-----	--------------------------------

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナー」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナー」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナー」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

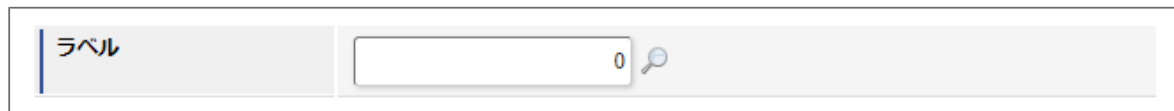
Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

明細テーブル

画面アイテム「明細テーブル」は、アプリの実行時に自由に行を追加して表形式で入力するためのアイテムです。

項目
■ 基本設定
■ 詳細設定
■ 表示スタイル
■ 列プロパティ概要
■ 列プロパティ(文字列)
■ 列プロパティ(数値)
■ 列プロパティ(日付)
■ 列プロパティ(関数)
■ 列プロパティ(隠しパラメータ)
■ 列プロパティ(一覧選択)
■ 列プロパティ(ラジオボタン)
■ 列プロパティ(セレクトボックス)
■ 明細テーブルの行のコピー、挿入、削除方法

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、アイテムの上に表示します。

行の定義

テーブルに追加できる行について設定します。

行追加可能

チェックをオンにした場合、アプリケーションの実行時に行を追加することができます。

行数

「行追加可能」のチェックがオフの場合、テーブルに表示する行数を設定できます。

最大行数

「行追加可能」のチェックがオンの場合、テーブルに追加できる行の最大値を設定できます。
入力した行数まで追加できるようになるため、1以上の値を設定してください。

列の定義

▼ 列の定義

テーブルに表示する列の設定を行ってください。

(1)	(2) 表示	(3) 列名 *	(4) タイプ	(5) 設定	(6) (7)
1	☒	列	文字列		-
2	☒	列	文字列		-
3	☒	列	文字列		-
4	☒	列	文字列		-

明細テーブルの列を設定します。

1. 列番号

列の表示順を設定します。
列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

2. 表示

列の表示/非表示を設定します。
チェックがオフの場合、列は画面に表示されませんが、値の設定・取得等に利用することができます。
タイプが「隠しパラメータ」の場合、必ずチェックがオフ(非表示)になります。

3. 列名

列の名称を設定します。
明細テーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

4. タイプ

列のデータ型を設定します。
関数や一覧選択等の他の画面アイテムを参照できるタイプの場合には、「関数」「一覧選択」で利用する場合と同様に、対象のフィールド識別IDを利用することで指定できます。

5. 設定

6. 追加

クリックすると、明細テーブルの列を追加します。

7. 削除

クリックすると、明細テーブルの列を削除します。

i

コラム

- 明細テーブルの表示について
明細テーブルのテーブル、列の表示・非表示、表示タイプについては、以下の通りの動作となります。
明細テーブルの「列の定義」での列の表示・非表示は、テーブルの表示タイプが表示であれば、列の定義を非表示にした場合も値を保持することができます。
表示タイプは、列の表示タイプが設定されている場合には、テーブルの表示タイプより列の表示タイプの設定が優先されます。
テーブルの表示タイプを非表示とした場合には、列の表示タイプを設定することはできません。
テーブル・列の表示タイプの設定で非表示とした場合には、データは保持されません。

詳細設定

テーブル識別ID

明細テーブル、グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブルの物理名として利用します。
フォーム間でテーブル同士の値の引継ぎをする場合は、テーブル識別IDを同じにする必要があります。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

列番号表示(参照時)

明細テーブルのテーブルに対する表示タイプが「参照」となっている場合に、左の列番号の表示を設定します。
チェックがオンになっている場合、入力時と同様の列番号を表示します。

- 列番号表示が有効の場合

明細テーブル				
	列	列	列	列
1	ABC	DEF	GHI	JKL
2	MNO	PQR	STU	VWX

- 列番号表示が無効の場合

明細テーブル			
列	列	列	列
ABC	DEF	GHI	JKL
MNO	PQR	STU	VWX

画面の種類（行項目）

- 1. 登録
Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
- 2. 編集
Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
- 3. 参照
Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

- 1. 表示・入力可
入力できる画面アイテムとして表示します。
- 2. 表示・参照
入力できませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
- 3. 非表示
入力・表示ともできません。
設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

明細テーブル				
+	列	列	列	列
1				

表示タイプ：参照

明細テーブル			
列	列	列	列

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

- 幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
- 高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
- X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
- Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

列のサイズ

列の入力欄の標示の幅をピクセル単位で指定します。

横位置揃え

列の値の横位置を左寄せ、中央寄せ、右寄せのいずれかに設定します。

表示スタイル

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

列プロパティ 概要

列プロパティは、「基本設定」 -> 「列の定義」 -> 「設定」をクリックして設定することができます。

明細テーブルの列プロパティには、以下のタイプがあります。

それぞれのタイプで、列プロパティの設定内容が異なります。

タイプ	説明
文字列	文字や数値などで短い文章を入力するときに使用するタイプです。
数値	金額や個数などの数値を入力するときに使用するタイプです。
日付	日付を入力するときに使用するタイプです。
関数	日付や数値の計算や、関数を使用して処理するときに使用するタイプです。
隠しパラメータ	フォーム上に表示させずに、値を保持するときに使用するタイプです。

タイプ	説明
一覧選択	外部連携を使用し、入力値を一覧から選択して入力するときに使用するタイプです。
ラジオボタン	複数項目から入力値をボタンで、1つ選択するときに使用するタイプです。
セレクトボックス	複数項目から入力値をプルダウンで、1つ選択するときに使用するタイプです。

列プロパティ(文字列)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「文字列」の場合には、以下の項目を設定します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- [チェックフォーマットの記述例](#)

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。

日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値(送信値)を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携 (*)
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ (列)

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。

列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。

テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類 (行項目)

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ (列項目)

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(数値)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。

列に設定したタイプが「数値」の場合には、以下の項目を設定します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
 - 2017Summerまでの 表示フォーマットを無効にしたとき 同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
 - 2017Summerまでの 表示フォーマットを有効にしたとき 同じ動作です。
- アカウント設定
 - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
 - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定

- 「設定ファイルリファレンス」 - 「数値形式マスタ」 で用意した全てのフォーマット



コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
<https://issue.intra-mart.jp/issues/27791>

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。



注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「[クライアントサイド JavaScript](#)」 - 「[ImDecimalFormatter](#)」 を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「[設定ファイルリファレンス](#)」 - 「[数値形式マスタ](#)」 から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している	123456789.123
	桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している	123456789.123
	桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	123,456,789.123

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
アカウント設定	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している - 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 123456789,123 123 456 789,123
テナント設定	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している - 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 123456789,123 123.456.789,123
システム設定	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している - 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123'456'789.123」の場合の例です。 123456789.123 123'456'789.123

 **コラム**

クライアントサイドスクリプトAPIにおいて、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
 チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
 チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
 (「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
 ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
 同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
 そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
 チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
 ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
 日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
 セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
 「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
 初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携 (*)
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。

列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。

テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ (列項目)

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ (日付)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。

列に設定したタイプが「日付」の場合には、以下の項目を設定します。

表示フォーマット (日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。

指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。

詳細は「[一般ユーザ操作ガイド](#)」-「[日付と時刻の形式を設定する](#)」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。

アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名（論理名）として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。

日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携 (*)
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。

列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。

テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録
Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
入力できませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
入力・表示ともできません。
設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(関数)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「関数」の場合には、以下の項目を設定します。

式

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。
他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）で指定します。
固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「"」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

利用できる演算子、関数

- [演算子](#)
- [文字列関数](#)
- [条件式関数](#)
- [数値系関数](#)
- [日付関数](#)
- [ユーザ情報関数](#)

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列

- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値

- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付

- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ

- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
 - 2017Summerまでの表示フォーマットを無効にしたときと同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
 - 2017Summerまでの表示フォーマットを有効にしたときと同じ動作です。
- アカウント設定
 - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
 - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
 - 「設定ファイルリファレンス」 - 「数値形式マスタ」で用意した全てのフォーマット



コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
<https://issue.intra-mart.jp/issues/27791>

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。



注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「クライアントサイド JavaScript」 - 「ImDecimalFormatter」を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「設定ファイルリファレンス」 - 「数値形式マスタ」から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している - 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	123456789.123 123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している - 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	123456789.123 123,456,789.123
アカウント設定	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している - 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 123456789,123 123 456 789,123
テナント設定	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している - 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 123456789,123 123.456.789,123
システム設定	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している - 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123'456'789.123」の場合の例です。 123456789.123 123'456'789.123

 **コラム**

クライアントサイドスクリプトAPIにおいて、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。

指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。

詳細は「[一般ユーザ操作ガイド](#)」-「[日付と時刻の形式を設定する](#)」を参照してください。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。

入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。

項目に入力されていない場合はチェックしません。

スペースは入力されているものとして扱われます。

最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。

スペースは入力されているものとして扱われます。

最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。

設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

■ [チェックフォーマットの記述例](#)

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。

項目に入力されていない場合はチェックしません。

「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。

最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。

「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。

最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
 チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
 チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
 (「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
 ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
 同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
 そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
 チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
 ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。
 枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
 チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。
 列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
 テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(隠しパラメータ)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。

列に設定したタイプが「隠しパラメータ」の場合には、以下の項目を設定します。

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。

利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列

- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値

- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付

- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ

- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。

列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。

テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示

html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示

html上に画面アイテムを存在させません。

列プロパティ(一覧選択)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。

列に設定したタイプが「一覧選択」の場合には、データソース設定のリンクからデータソースに関する設定を入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

データソース名

データソース定義で定義済みのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。

クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

一覧選択画面

検索アイコンをクリックした際に表示する選択できる項目一覧のレイアウトを設定します。

- 画面タイトル
 - 別画面として表示する画面のタイトルを入力します。
- 簡易検索機能
 - チェックがオンの場合、一覧選択画面上で簡易検索機能を利用できるようにします。
- 詳細検索機能
 - チェックがオンの場合、一覧選択画面上で詳細検索機能を利用できるようにします。
- 検索結果表示（初期表示時）
 - チェックがオンの場合、初期表示時に検索結果を表示します。
対象データ件数が多いときの初期表示時のパフォーマンスを考慮し、初期表示時に検索結果を表示させたくない場合に設定します。
- 項目幅の自動調整
 - チェックがオンの場合、検索結果表の列の項目幅が表の幅に収まるように自動調整をします。
チェックがオフの場合、検索結果表の列の項目幅を自動調整せずに、一定の幅で表示します。
表の幅に収まらない場合はスクロールバーを表示します。
- 初期表示のソート順
 - 初期表示時の検索結果表のソート対象項目と並び順（昇順/降順）を指定します。
- 非表示項目、一覧表示項目

- クエリの取得値の設定項目のうち、一覧に表示する項目を「一覧表示項目」の枠に、一覧に表示しない項目を「非表示項目」に設定します。



コラム

一覧選択画面での簡易検索機能は、出力値に設定されているすべての「文字列型」の列に対して部分一致で行います。

一覧選択画面での詳細検索機能は、列毎に詳細な検索をすることができます。



注意

IM-FormaDesigner 2022Winter から項目幅の自動調整と初期表示のソート順の設定を追加しました。

- IM-FormaDesigner 2022Spring 以前から、アップデートして、定義情報を変更しない状態の動作は、2022Spring 以前と変更ありません。
「[画面設計書出力](#)」での出力値は空白で出力されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義済みのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。

クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

条件項目

データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。

同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」(*)を指定します。

任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「"」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

利用できる演算子、関数は以下の通りです。

- [演算子](#)
- [文字列関数](#)
- [条件式関数](#)
- [数値系関数](#)
- [日付関数](#)
- [ユーザ情報関数](#)
- [ワークフロー関数\(申請情報\)](#)
- [ワークフロー関数\(案件情報\)](#)

取得値設定

選択したクエリで取得するデータのどの取得項目を画面アイテムに表示するかを設定します。

1. ラジオボタン

「一覧選択」の入力欄に表示する値を設定します。

取得項目が1つの場合は、変更できません。

2. 取得値を表示する画面アイテム

フォーム上の他の画面アイテムに取得するデータを表示する場合に、セレクトボックスからフィールド識別名で設定します。

- 取得値に設定できるアイテム
 - 文字列 (product_72_textbox)
 - 複数行文字列 (product_72_textarea)
 - 数値 (product_72_number)

- 日付 (product_72_date)
- 期間 (product_72_term)
- 一覧選択 (互換用) (product_72_itemSelect)
- 隠しパラメータ (product_72_hidden)

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。

アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。

入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。

項目に入力されていない場合はチェックしません。

スペースは入力されているものとして扱われます。

最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。

スペースは入力されているものとして扱われます。

最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。

設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- [チェックフォーマットの記述例](#)

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名（論理名）として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。

日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携 (*)
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。

- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。

列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。

テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(ラジオボタン)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。

列に設定したタイプが「ラジオボタン」の場合には、選択データのリンクから選択データに関する設定を

入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

■ プロパティ設定値

固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

■ データソース設定値

データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。

選択できる値は右の列の＋、－によって追加、削除することができます。

- 項目番号

項目の表示順を設定します。

項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。

複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義済みのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。

クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義済みのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。

クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目

データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。

同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」(※)を指定します。

任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「"」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。

- [演算子](#)
- [文字列関数](#)
- [条件式関数](#)
- [数値系関数](#)
- [日付関数](#)
- [ユーザ情報関数](#)
- [ワークフロー関数\(申請情報\)](#)
- [ワークフロー関数\(案件情報\)](#)

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値

画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値

画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。

複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。

日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携 (*)
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。

「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。（幅を超えた分は次の行に折り返します。）

「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。

列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。

テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力できませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(セレクトボックス)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。

列に設定したタイプが「セレクトボックス」の場合には、選択データのリンクから選択データに関する設定を入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。

選択できる値は右の列の＋、－によって追加、削除することができます。

- 項目番号

項目の表示順を設定します。

項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。

複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義済みのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。

クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義済みのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。

クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目

データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。

同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」(*)を指定します。

任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「"」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。

- [演算子](#)
- [文字列関数](#)
- [条件式関数](#)
- [数値系関数](#)
- [日付関数](#)
- [ユーザ情報関数](#)
- [ワークフロー関数\(申請情報\)](#)
- [ワークフロー関数\(案件情報\)](#)

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値

画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値

画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。

複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名（論理名）として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

入力欄に初期表示する値を設定します。

日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
 - 前処理
 - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。

列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。

テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力にはできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

明細テーブルの行のコピー、挿入、削除方法

行のコピー、挿入、削除方法について説明します。

行のコピー

行のコピーを行います。

1. コピー対象の番号を右クリックします。

明細テーブル

+	列	列	列	列
1	aaa	bbb	ccc	ddd
2	eee	fff	ggg	hhh
3	iii	jjj	kkk	lll
4	mmm	nnn	ooo	ppp

2. 「コピー」をクリックします。

明細テーブル

+	列	列	列	列
1		bbb	ccc	ddd
2		fff	ggg	hhh
3		jjj	kkk	lll
4	mmm	nnn	ooo	ppp

コピー

+ 挿入

- 削除

3. 挿入対象の番号で右クリックし、「コピーした行の挿入」をクリックします。

明細テーブル

+	列	列	列	列
1	aaa	bbb	ccc	ddd
2		fff	ggg	hhh
3		jjj	kkk	lll
4		nnn	ooo	ppp

コピー

コピーした行の挿入

+ 挿入

- 削除

4. コピーした行が挿入されます。

明細テーブル				
+	列	列	列	列
1	aaa	bbb	ccc	ddd
2	aaa	bbb	ccc	ddd
3	eee	fff	ggg	hhh
4	iii	jjj	kkk	lll
5	mmm	nnn	ooo	ppp

行の挿入

行の挿入を行います。

- 1. 「+」アイコンまたは、挿入対象の番号で右クリックし、「挿入」をクリックします。

明細テーブル				
+	列	列	列	列
1	aaa	bbb	ccc	ddd
2	aaa	bbb	ccc	ddd
		fff	ggg	hhh
		jjj	kkk	lll
		nnn	ooo	ppp

コピー

コピーした行の挿入

+ 挿入

- 削除

- 2. 行が挿入されます。

明細テーブル				
+	列	列	列	列
1	aaa	bbb	ccc	ddd
2	aaa	bbb	ccc	ddd
3				
4	eee	fff	ggg	hhh
5	iii	jjj	kkk	lll
6	mmm	nnn	ooo	ppp

行の削除

行の削除を行います。

- 1. 削除対象の番号で右クリックし、「削除」をクリックします。

明細テーブル

+	列	列	列	列
1	aaa	bbb	ccc	ddd
2	aaa	bbb	ccc	ddd
3				
4	eee	fff	ggg	hhh
5	...	jjj	kkk	lll
6		nnn	ooo	ppp

コピー

コピーした行の挿入

+ 挿入

- 削除

2. 行が削除されます。

明細テーブル

+	列	列	列	列
1	aaa	bbb	ccc	ddd
2	aaa	bbb	ccc	ddd
3				
4	eee	fff	ggg	hhh
5	mmm	nnn	ooo	ppp

i コラム

- スマートフォンの場合
スマートフォンでは、以下の処理を行うことができます。
 - 行のコピー
 - 行の削除
- 行のコピーを行います。

1. 番号をクリックし、コピー対象を選択します。

明細テーブル 編集

+	列	列	列	列
1	aaa	bbb	ccc	ddd
2	eee	fff	ggg	hhh

2. 「+」をクリックします。

明細テーブル 編集

+	列	列	列	列
1	aaa	bbb	ccc	ddd
2	eee	fff	ggg	hhh

3. コピーした行が挿入されます。

明細テーブル 編集				
+	列	列	列	列
1	aaa	bbb	ccc	ddd
2	eee	fff	ggg	hhh
3	aaa	bbb	ccc	ddd

行の削除を行います。

1. 「編集」ボタンをクリックします。

明細テーブル 編集				
+	列	列	列	列
1	aaa	bbb	ccc	ddd
2	eee	fff	ggg	hhh
3	aaa	bbb	ccc	ddd

2. 「-」をクリックします。

明細テーブル 編集終了				
+	列	列	列	列
-	aaa	bbb	ccc	ddd
-	eee	fff	ggg	hhh
-	aaa	bbb	ccc	ddd

3. 「編集終了」ボタンをクリックします。

明細テーブル 編集終了				
+	列	列	列	列
-	aaa	bbb	ccc	ddd
-	eee	fff	ggg	hhh

4. 対象行が削除されます。

明細テーブル 編集				
+	列	列	列	列
1	aaa	bbb	ccc	ddd
2	eee	fff	ggg	hhh

チェックボックス

画面アイテム「チェックボックス」は、複数項目から入力値を選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

外部連携

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。

選択できる値は右の列の＋、－によって追加、削除することができます。

- 項目番号

項目の表示順を設定します。

項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。

複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義済みのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。

クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義済みのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。

クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目

データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。

同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」(※)を指定します。

任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「"」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。

- [演算子](#)
- [文字列関数](#)
- [条件式関数](#)
- [数値系関数](#)
- [日付関数](#)
- [ユーザ情報関数](#)
- [ワークフロー関数\(申請情報\)](#)
- [ワークフロー関数\(案件情報\)](#)

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値

画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値

画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。

複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。

日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携 (*)
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。

「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。（幅を超えた分は次の行に折り返します。）

「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

項目幅

各選択肢の表示値の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

☒ チェックボックス
 ☐ 項目名未定義

表示タイプ：参照

☒ チェックボックス
 ☐ 項目名未定義

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。

☒ チェックボックス

☐ 項目名未定義

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

ラジオボタン

画面アイテム「ラジオボタン」は、複数項目から入力値を1つ選択するためのアイテムです。

基本設定

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

外部連携

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、－によって追加、削除することができます。

- 項目番号

項目の表示順を設定します。
項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義済みのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義済みのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。

クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目

データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。

同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」(※)を指定します。

任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「"」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。

- [演算子](#)
- [文字列関数](#)
- [条件式関数](#)
- [数値系関数](#)
- [日付関数](#)
- [ユーザ情報関数](#)
- [ワークフロー関数\(申請情報\)](#)
- [ワークフロー関数\(案件情報\)](#)

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値

画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値

画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。

複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。

日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。

「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。（幅を超えた分は次の行に折り返します。）

「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

項目幅

各選択肢の表示値の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ (列項目)

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

ラジオボタン ☒ 項目名未定義

表示タイプ：参照

ラジオボタン ☐ 項目名未定義

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。

ラジオボタン ☒ 項目名未定義

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

セレクトボックス

画面アイテム「セレクトボックス」は、複数項目から入力値を1つ選択するためのアイテムです。

基本設定

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

外部連携

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、－によって追加、削除することができます。

- 項目番号

項目の表示順を設定します。
項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義済みのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。

クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義済みのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。

クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

■ 条件項目

データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。

同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」(※)を指定します。

任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「"」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

■ 利用できる演算子、関数は以下の通りです。

- [演算子](#)
- [文字列関数](#)
- [条件式関数](#)
- [数値系関数](#)
- [日付関数](#)
- [ユーザ情報関数](#)
- [ワークフロー関数\(申請情報\)](#)
- [ワークフロー関数\(案件情報\)](#)

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値

画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値

画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。

複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

入力欄に初期表示する値を設定します。

日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

セレクトボックス

▼

表示タイプ：参照

セレクトボックス

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。

セレクトボックス

▼

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

リストボックス

画面アイテム「リストボックス」は、複数項目から入力値を選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

外部連携

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。

選択できる値は右の列の＋、－によって追加、削除することができます。

- 項目番号

項目の表示順を設定します。

項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。

複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用で

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義済みのクエリー一覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義済みのクエリー一覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

■ 条件項目

データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」(*)を指定します。
任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「"」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

■ 利用できる演算子、関数は以下の通りです。

- [演算子](#)
- [文字列関数](#)
- [条件式関数](#)
- [数値系関数](#)
- [日付関数](#)
- [ユーザ情報関数](#)
- [ワークフロー関数\(申請情報\)](#)
- [ワークフロー関数\(案件情報\)](#)

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値

画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値

画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。

日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

行数

画面に表示する選択肢の個数を指定します。

選択肢の個数が行数に設定した値より多い場合は、スクロールバーを利用して選択します。

参照時セパレータ

表示タイプ「参照」で、選択済みの複数の値を表示する際の区切り文字を設定します。

参照時セパレータの値に関係なく、データベース上では、複数の値が選択済みの場合には「,」を区切り文字として使用し

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力できませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

リストボックス

項目名未定義

表示タイプ：参照

リストボックス

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

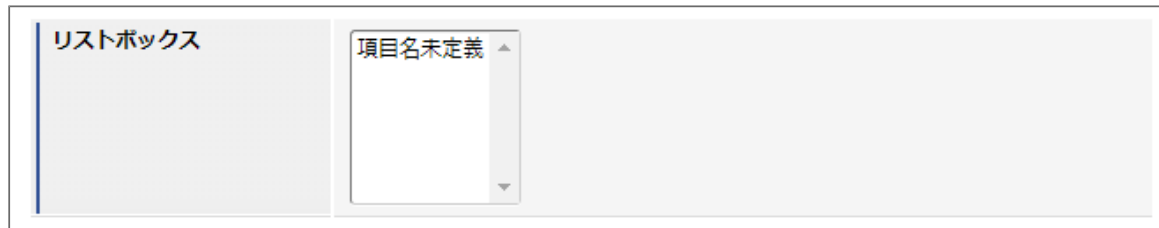
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

ファイルアップロード

画面アイテム「ファイルアップロード」は、画面の入力時のファイルを添付するためのアイテムです。

なお、IM-Workflow の添付ファイルとは異なる機能となりますので、注意してください。



注意

- アップロード可能なファイルサイズは、intra-mart Accel Platform の機能に依存します。制限サイズを超えるファイルをアップロードするとエラーが発生しますので注意してください。
制限サイズの設定方法については、「[設定ファイルリファレンス](#)」-「[リクエストクエリの長さ制限](#)」を参照してください。
- ファイルアップロードの「備考」は500文字まで入力できます。
- ファイルアップロードアイテムのテーブルのカラムサイズの変更については、以下のリンク先を参照してください。
 - 「[IM-FormaDesigner 仕様書](#)」-「[カラムサイズの拡張](#)」
- データベースとして PostgreSQL を利用し、ファイルアップロードアイテムの保存先をデータベースとしている場合、添付ファイルサイズが非常に大きいとファイルのダウンロードが正常に行われない場合があります。
詳細は、「[制限事項](#)」-「[データベースとして PostgreSQL を利用し、ファイルアップロードアイテムの保存先をデータベースとしている場合、添付ファイルサイズが非常に大きいとファイルのダウンロードが正常に行われない場合があります。](#)」を参照してください。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、アイテムの上に表示します。

添付ファイルの個数

同一フォーム内で添付可能なファイルの個数の上限値、下限値を設定します。

1. 最小

添付ファイルの最小添付数を0以上の値で設定します。

2. 最大

添付ファイルの最大添付数を0以上の値で設定します。

アイテム識別ID

アップロードしたファイルを画面アイテムと関連付けるためのIDを設定します。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画像プレビュー表示

この設定は、ファイルアップロードを「プレビュー表示」モードとして動作させるための設定です。

設定が有効な場合には、ファイルアップロードアイテム内にプレビュー幅・高で設定したサイズの画像を表示します。プレビュー画像をクリックすると元画像サイズで表示できます。

「画像プレビュー表示」を有効にした場合、アップロード可能なファイルが画像ファイル（拡張子：jpg,jpeg,png,gif）に限定されます。

プレビュー幅

アップロードした画像ファイルのプレビュー表示時の表示サイズの幅をピクセル単位で指定します。

プレビュー高

アップロードした画像ファイルのプレビュー表示時の表示サイズの高さをピクセル単位で指定します。

1ファイルあたりのサイズ（キロバイト単位）

1ファイルあたりのファイルサイズの上限をキロバイト単位で指定します。



コラム

- 1ファイルあたりのサイズ（キロバイト単位）には0以上の数値を必ず入力してください。
- 0を指定した場合は実行画面ではファイルサイズによる制限を行いません。

許可する拡張子

アップロードを許可するファイル拡張子をカンマ区切りで指定します。



コラム

- 「画像プレビュー表示」が有効な場合は、jpeg,jpg,gif,png のみ設定します。
- 未指定の場合は「画像プレビュー表示」が有効な場合は、実行画面では jpeg,jpg,gif,png を許可します。「画像プレビュー表示」が無効な場合は、実行画面では、すべての拡張子を許可します。

別ウィンドウ表示

別ウィンドウ表示の有効無効を設定します。

ファイル名を押下した場合に、別ウィンドウでファイルを開きます。



コラム

- 別ウィンドウ表示を有効にした場合、実行画面でファイルをダウンロードするにはファイル名の右側にあるアイコンを押します。
- 実行画面では、ブラウザによって別ウィンドウ表示されるファイルの種類が異なります。
- スマートフォン版では別ウィンドウでは表示されません。

ファイル一覧の並び順

アップロードされたファイルの並び順に関して、ソートに使用する項目（ファイル名/備考/更新日）と並び順（昇順/降順）を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力できませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

添付ファイル			
ファイル名	備考	更新日	+

表示タイプ：参照

添付ファイル		
ファイル名	備考	更新日

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

リッチテキストボックス

画面アイテム「リッチテキストボックス」は、色やフォントなどの文字装飾を伴う文字を入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、アイテムの上に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。
承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。
なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

リッチテキストボックス設定

リッチテキストボックスのエディタなどの詳細を設定します。

ツールバースタイル

ツールバー（編集用のコマンドアイコンを表示する部分）のスタイルを設定します。

「シンプル」に設定した場合、利用できるコマンドアイコンが少なくなります。

メニューバー

メニューバーを表示するか設定します。

チェックボックスがオンの場合、編集用のコマンドアイコンがメニューバーにまとまって表示されます。

画像挿入機能の利用

ローカルの画像を利用する機能を設定します。

設定ファイル（ui-tag-config_imui-richtextbox.xml）にて、扱える画像のオプションを設定できます。

- [imuiDataUrl（設定を変更する）](#)

エディタ幅

文字を編集する領域の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

エディタ高さ

文字を編集する領域の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

参照表示高さ固定

表示タイプの表示が「参照」の場合に、リッチテキストボックスの領域の高さを調整するかを設定します。

チェックボックスがオンの場合、表示する内容に関係なく、常に固定の高さで表示します。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

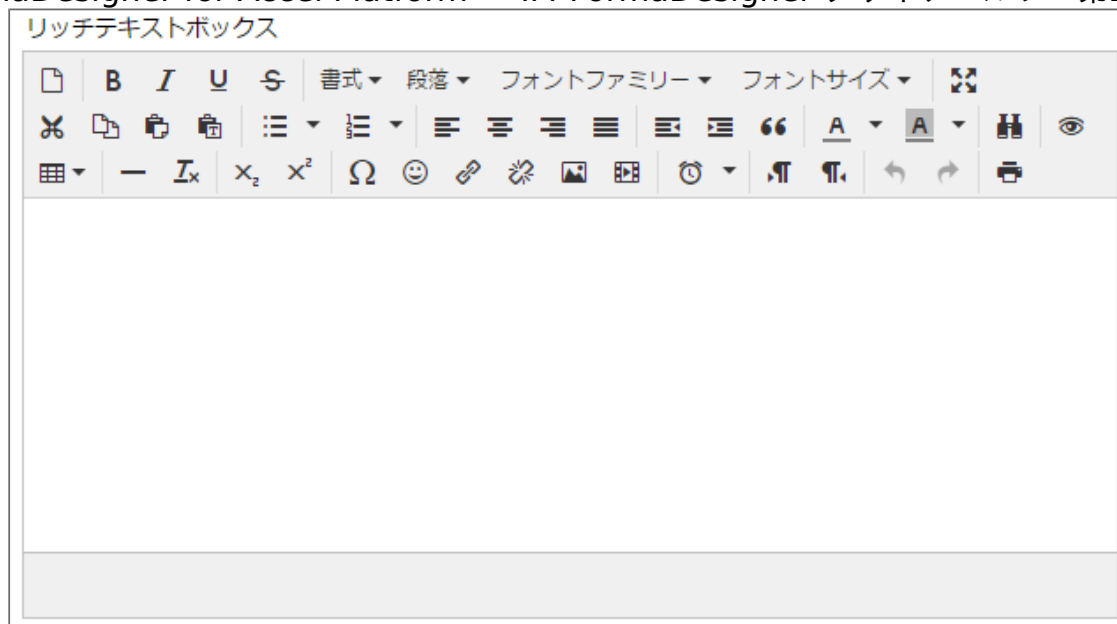
入力できませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

ボタンアイテム

ボタン(登録)

画面アイテム「ボタン(登録)」は、入力したデータの登録処理を実行するためのアイテムです。

基本設定

ラベル（登録・編集・参照）

ボタンのラベルとして使用します。

ラベルに設定した名称を、ボタン上に表示します。

「ボタン（登録）」では、表示タイプに合わせて表示する名称を設定できます。

- 登録：登録画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「登録」です。
- 編集：編集画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「更新」です。
- 参照：参照画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「更新」です。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。

レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示

html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示

html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(次へ)

画面アイテム「ボタン(次へ)」は、次の画面に遷移するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。

ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。

レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

利用方法

利用方法を設定します。

- 画面遷移(次へ)：次の画面に遷移します。タブフォームに設定している場合には、右のタブに遷移します。
- ポップアップ表示：ポップアップで表示します。

子画面サイズ（幅）

ポップアップ表示する子画面の横の長さ（幅）をピクセル単位で指定します。

子画面サイズ（高）

ポップアップ表示する子画面の縦の長さ（高さ）をピクセル単位で指定します。

Forma画面設定

子画面表示時

子画面表示時の処理を指定します。

- 子画面に値を反映：親画面から子画面に値を反映します。
- 何もしない：値の反映はしません。

フォーム遷移名

子画面に表示するフォーム遷移を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ (列項目)

1. 表示

html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示

html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(戻る)

画面アイテム「ボタン(戻る)」は、前の画面に遷移するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。

ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。

レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

「戻る」ボタンの動作について

「戻る」ボタンは、ボタンが配置されたフォームの遷移前の画面、遷移先の画面によって動作が異なりますので、注意して配置してください。

「ヘッダー」の「戻る」リンクが表示された場合も同じ動作となります。

- フォーム遷移設定で、表示するフォーム件数が1件(単一のフォーム画面を表示する)の場合

フォームの遷移前の画面	「戻る」ボタン／「戻る」リンクをクリックした後の 遷移先の画面
一覧表示画面	一覧表示画面
メニュー(サイトマップなど)	画面遷移しません(クリックしても何も起こりません)

- フォーム遷移設定で、表示するフォーム件数が2件以上(複数のフォーム画面を表示する)の場合

フォームの遷移前の画面	「戻る」ボタン／「戻る」リンクをクリックした後の 遷移先の画面
一覧表示画面→前に表示するフォーム	前に表示するフォーム画面
メニュー(サイトマップなど)→前に表示するフォーム	前に表示するフォーム画面

最初に表示するフォームの場合の動作は、単一のフォーム画面を表示する場合と同様となります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

利用方法

利用方法を設定します。

- 画面遷移(戻る)：画面遷移で戻ります。タブフォームに設定している場合には、左のタブに遷移します。
- 子画面利用(閉じる)：子画面を閉じます。

クリック時の処理

クリック時の処理を指定します。

- 親画面に値を反映し画面を閉じる：画面を閉じる際に親画面に値を反映します。
- 画面を閉じる：画面を閉じます。

確認ダイアログ

チェックをオンにした場合、子画面を閉じる際にダイアログを表示します。

確認メッセージ

確認ダイアログに表示するメッセージを登録します。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示

html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示

html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(一覧へ戻る)

画面アイテム「ボタン(一覧へ戻る)」は、一覧画面に遷移するためのアイテムです。

遷移先の一覧画面は、アプリケーション種別や呼び出し元の画面によって異なります。

詳細は下記のページを参照してください。

- 「[IM-FormaDesigner 仕様書](#)」
- 「[IM-FormaDesignerにおける画面遷移部品の仕様（アプリケーション種別「標準」の場合）](#)」

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。

ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。

レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示

html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示

html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナー」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナー」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナー」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナー」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

画面アイテム「ボタン(一時保存)」は、一時保存を実行するためのアイテムです。
入力したデータを登録しないで保存することができます。
一時保存を行ったデータは、次に登録画面を表示したときに再度表示して編集・登録することができます。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

- 「する」をオン
登録または申請時と同様の入力チェックが行われます。
- 「しない」をオン
以下の最小限の入力チェックのみ行われます。
 - 最大文字数
 - 数値のみ
 - 数値桁数
 - 小数部桁数
 - 日付形式



コラム

以下の入力チェックは行われません。

- 必須チェック
- 必須選択チェック
- 最小文字数
- 英数字のみ
- 負数
- 添付ファイルの個数 最少
- 添付ファイルの個数 最大
- 正規表現

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示

html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示

html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

共通マスタアイテム

ユーザ選択

画面アイテム「ユーザ選択」は、IM共通マスタのユーザを検索して入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携 (*)
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

ユーザ検索画面 / 組織検索画面

ユーザ、組織の検索方法として利用できる画面(タブ)を選択します。

「表示タブ」に表示した画面(タブ)をアプリの実行時に利用できます。

表示するタブは上から順になりますので、右の矢印で並び順を変更することもできます。

画面の種類 (行項目)

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ (列項目)

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

表示タイプ：参照

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

組織選択

画面アイテム「組織選択」は、IM共通マスタの組織を検索して入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

組織名の表示

組織名を表示するときに、階層的に表示するかどうかを設定します。

チェックがオンの場合、組織名を上位組織から階層的に表示します。

（例）サンプル会社 / サンプル部門 0 1 / サンプル課 1 1

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

ユーザ検索画面 / 組織検索画面

ユーザ、組織の検索方法として利用できる画面(タブ)を選択します。

「表示タブ」に表示した画面(タブ)をアプリの実行時に利用できます。

表示するタブは上から順になりますので、右の矢印で並び順を変更することもできます。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

表示タイプ：参照

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

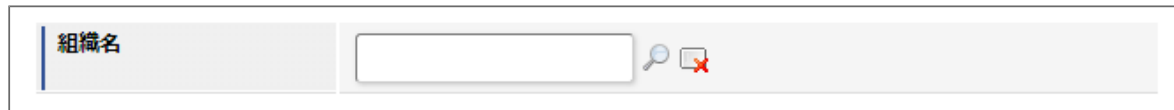
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。

A horizontal UI element with a light gray background. On the left, the text '組織名' (Organization Name) is displayed in a blue font. To its right is a white rectangular input field. Further right are two small icons: a magnifying glass (search) and a red 'X' inside a square (delete).

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

組織・役職選択

画面アイテム「組織・役職選択」は、IM共通マスタの役職を検索して入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力できませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

役職名		 
-----	----------------------	---

表示タイプ：参照

役職名	
-----	----------------------

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナー」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

- 高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
- X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
- Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

所属組織選択

画面アイテム「所属組織選択」は、IM共通マスタの所属組織を検索して入力するためのアイテムです。



コラム

「所属組織選択」には、一時保存時に前回処理時の入力値は表示されません。
一時保存画面を表示した時点のログインユーザの情報を反映する仕様により、前回処理（一時保存・登録）時からログインユーザの情報に変更があった場合には無効な情報となっている可能性もあるため、一時保存では常に初期値が表示されます。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

汎用アイテム

隠しパラメータ

画面アイテム「隠しパラメータ」は、フォーム上に表示させずに値を保持するためのアイテムです。

基本設定

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列

- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値

- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付

- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ

- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示

html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示

html上に画面アイテムを存在させません。

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

スクリプト

画面アイテム「スクリプト」は、フォームの表示時に実行するスクリプトを記述するためのアイテムです。

スクリプトを書くためにはJavascriptの知識が必要です。jQueryを学ぶことにより、より高度な操作が簡単に行えます。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示

html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示

html上に画面アイテムを存在させません。

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

スクリプト

コード実行タイミングは、DOMツリーが構築された直後です。

参考：\$(document).ready(記述コード)

デフォルトでjQueryライブラリが読み込まれているので、自由に利用することができます。

コードの制限などはありません。

スクリプトにより各画面アイテムの操作方法が分からない場合は、フォーム実行時に生成されるHTMLをブラウザの機能で参照し判断してください。

また、クライアントサイドスクリプトAPIを利用して、画面アイテムの値操作を行うことができます。

詳細：「[IM-BIS 仕様書](#)」 - 「[クライアントサイドスクリプトAPI](#)」



コラム

フォーム上に配置したアイテムのスクリプトの実行順は、HTML上での配置順に基づいて決定します。この配置順については、以下のいずれかの方法で設定されます。

- ツールキットからフォーム編集画面（フォーム・デザイナ）に配置した順序
- フォーム編集画面（フォーム・デザイナ）でのアイテムのコンテキストメニュー（右クリックで表示するメニュー）の前面や背面への移動
(前面への移動では実行順が後、背面への移動では実行順が前になります。)

実際のアイテムの配置順については、実行時のHTMLで確認してください。



注意

スクリプト操作による動作は製品では保証できません。十分な検証を行ってください。



注意

「スマートフォン版」表示を利用する場合、以下の関数を利用して、「PC版」「スマートフォン版」でスクリプトの実行をコントロールしてください。

- `forma.funcs.getDisplayClientType()`
実行しているクライアントを返却します。
 - クライアントがPCの場合

「pc」と返却します。
 - クライアントがスマートフォンの場合

「sp」と返却します。

スクリプトエディタで開く

クライアントサイド JavaScriptに関する開発に特化したエディタを使用して編集できます。

「確定」を押下することで、アイテムプロパティへ値を反映します。

スクリプトエディタでは配置した画面アイテムのクライアントサイドスクリプトAPIを補完できます。

補完できるAPIについては、「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[クライアントサイドスクリプトAPI](#)」を参照してください。



コラム

補完はスクリプトエディタ表示時に配置されていた画面アイテムが対象です。

スクリプトエディタ表示後に画面アイテムを配置した場合は、スクリプトエディタを閉じ、再度表示することで補完対象にできます。

ボタン(イベント)

画面アイテム「ボタン(イベント)」は、ボタンでスクリプトを実行するためのアイテムです。

PDF印刷等の処理を行わせることができます。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。

ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。

レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示

html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示

html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナー」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナー」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナー」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナー」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

スクリプト

ボタンをクリックした時に実行する、javascriptコードを記述します。

デフォルトでjQueryライブラリが読み込まれているので、自由に利用することができます。

コードの制限などはありません。

スクリプトにより各画面アイテムの操作方法が分からない場合は、フォーム実行時に生成されるHTMLをブラウザの機能で参照し判断してください。

また、クライアントサイドスクリプトAPIを利用して、画面アイテムの値操作を行うことができます。

詳細：「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[クライアントサイドスクリプトAPI](#)」



注意

スクリプト操作による動作は製品では保証できません。十分な検証を行ってください。



注意

「スマートフォン版」表示を利用する場合、以下の関数を利用して、「PC版」「スマートフォン版」でスクリプトの実行をコントロールしてください。

- `forma.funcs.getDisplayClientType()`
実行しているクライアントを返却します。
 - クライアントがPCの場合
「pc」と返却します。
 - クライアントがスマートフォンの場合
「sp」と返却します。

スクリプトエディタで開く

クライアントサイド JavaScriptに関する開発に特化したエディタを使用して編集できます。

「確定」を押下することで、アイテムプロパティへ値を反映します。

スクリプトエディタでは配置した画面アイテムのクライアントサイドスクリプトAPIを補完できます。

補完できるAPIについては、「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[クライアントサイドスクリプトAPI](#)」を参照してください。



コラム

補完はスクリプトエディタ表示時に配置されていた画面アイテムが対象です。

スクリプトエディタ表示後に画面アイテムを配置した場合は、スクリプトエディタを閉じ、再度表示することで補完対象にできます。

採番

画面アイテム「採番」は、登録済みの採番ルール定義を利用して自動的に番号を取得して表示するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

採番ルール定義名

- 登録済みの採番ルール定義からどの採番ルール定義を利用するかを設定します。
- 採番ルール定義をフォームで利用する場合には、あらかじめ採番ルール定義の登録を行っておく必要があります。
- 初期設定では、「システムによる自動採番」が設定されています。
「システムによる自動採番」で採番ルール定義を設定した場合は、JS API `Identifier.get()`を利用してシステム上一意な値を返します。

採番方法

- 採番をどのタイミングで行うかを設定します。
 - 画面アクセス毎
画面を表示したタイミングで採番します。
ただし、一時保存した状態で再度表示した場合には採番しません。
 - 登録処理毎
画面で登録(申請)処理を行われたタイミングで採番します。
正常に処理が完了したタイミングで番号が確定するため、登録(申請)前には何も表示されません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
入力・表示ともできません。
設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示タイプ：入力可

採番番号	5i4dlldd0dixmot4
------	---

表示タイプ：参照

採番番号	5i4dlldd0dixmot4
------	---

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。

採番番号	8f07fnpv3i43wf7
------	--

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

インラインフレーム

画面アイテム「インラインフレーム」は、フォーム上に枠を作り別のページを表示するためのアイテムです。



注意

インラインフレームは、IM-BIS for Accel Platform でのみ利用できます。

- ご利用時の注意点
 - 画面アイテム「インラインフレーム」を利用することで、様々なWebサイトを画面上に表示できますが、呼び出し先のWebサイトの設定を正しく設定しても、該当のサイトを表示できない場合がありますのでご了承ください。
 - インラインフレームの倍率が25%の場合、「フォーム・デザイナー」画面、実行画面で利用されているダイアログ（フォーム・デザイナー画面のツールキットやフィールド一覧など）がインラインフレームの後ろに隠れて表示されてしまう場合があります。
この現象は、URLに設定したWEBサイトによって発生します。
 - 「Internet Explorer 8」では、倍率設定が正しく動作しませんので、注意してください。

基本設定

URL

インラインフレームに表示するサイトのURLを指定します。

パラメータ設定

送信方法

データの送信方法を「GET」「POST」のいずれかから選択します。

パラメータ設定

URLに設定した値（アドレス）に追加したいパラメータのキーと値の組み合わせを設定します。

「+」「-」で追加と削除ができます。

左の行番号をドラッグすることで順番の入れ替えができます。

■ パラメータキー

パラメータキーを設定します。

■ パラメータ値

パラメータ値に設定されている状態を確認します。

値の取得元がプロパティ設定値の場合、パラメータ値に設定した文字列がそのまま表示されます。

データソース設定値の場合は、「データソース設定値」とだけ表示されます。

パラメータキー

編集対象のパラメータ値に対応するパラメータキーを選択します。

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

■ プロパティ設定値

固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

■ データソース設定値

データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

パラメータ値

パラメータに設定する値を登録します。

同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」を指定します。

任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「"」で囲んで指定します。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義済みのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。

クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

データソース設定

データソース定義で定義済みのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。

クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

■ 条件項目

データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。

同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」を指定します。

任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「"」で囲んで指定します。

■ 利用できる演算子、関数は以下の通りです。

- [演算子](#)
- [文字列関数](#)
- [条件式関数](#)
- [数値系関数](#)
- [日付関数](#)
- [ユーザ情報関数](#)
- [ワークフロー関数\(申請情報\)](#)
- [ワークフロー関数\(案件情報\)](#)

パラメータ設定値

パラメータに設定する値を登録します。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

インラインフレームの動作種別を設定します。

以下の項目から設定できます。

- 「利用しない」の場合

インラインフレームを通常表示します。

画面から直接インラインフレーム内の項目を操作できます。

最大表示はできません。

表示例)



- 「クリック／コントロールバー」の場合

画面から直接インラインフレーム内の項目を操作できませんが、一度インラインフレーム内をクリックし、最大表示した後に操作できます。

表示例)



- 「コントロールバー」の場合

画面から直接インラインフレーム内の項目を操作できます。

また、上部に表示されるバーで倍率と最大表示と縮小表示を行えます。

表示例)



通常時の倍率

最大表示ではないときの倍率を指定します。
25%～275%の間で25%ごとに指定できます。

最大化時の倍率

コントロールバーの「クリック／コントロールバー」と「コントロールバー」を選択した場合に、最大表示のときの倍率を指定します。
25%～275%の間で25%ごとに指定できます。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 登録
Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

コントロールバースタイル

グラデーションパターン

コントロールバーにグラデーションを設定します。

以下の項目から選択できます。

- 利用しない
グラデーションを利用せずに、コントロールバーを単色で表示します。
コントロールバーの色を1色指定します。
- 縦方向
コントロールバーの色1からコントロールバーの色2へと、上から下へ縦方向にグラデーションで表示します。
コントロールバーの色を2色指定します。
- 横方向
コントロールバーの色1からコントロールバーの色2へと、左から右へ横方向にグラデーションで表示します。
コントロールバーの色を2色指定します。

コントロールバーの色1

コントロールバーの色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

コントロールバーの色2

コントロールバーの色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠のスタイル

表示する画面アイテムの枠の形式を指定します。

- none：枠は表示されません。表のセルなどの枠が重なり合う場合は他の値が優先されます。
- solid：枠は1本の線で表示されます。
- double：枠は二重線で表示されます。
- groove：枠は立体的に窪んだ線で表示されます。
- ridge：枠は立体的に隆起した線で表示されます。
- inset：枠の内側が立体的に窪んだ線で表示されます。
- outset：枠の内側が立体的に隆起した線で表示されます。
- dashed：枠は破線で表示されます。
- dotted：枠は点線で表示されます。



- 枠のスタイルによる設定項目の違いについて

枠のスタイルを特定の種類にした場合には、一部の設定項目が下記の通り変わります。
設定した枠のスタイルの種類に合わせて、必要な項目を設定してください。

- 正方形/長方形の場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	必須
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

- インラインフレーム、BI表示アイテムの場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	任意
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

枠の太さ

表示する枠の太さをピクセル単位で指定します。

枠の色

枠の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

BI表示アイテム

画面アイテム「BI表示アイテム」は、Jaspersoftのレポートをフォーム上に表示するためのアイテムです。



注意

「BI表示アイテム」は、Jaspersoft 機能強化モジュールが導入されている環境でのみご利用いただけます。

基本設定

カテゴリ

レポートタイプを指定します。

Jaspersoftのレポートタイプに合わせて、レポート、チャート、ダッシュボードのいずれかを設定してください。

レポートパス

右の虫眼鏡アイコンからレポートを検索し、表示するレポートのパスを設定します。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

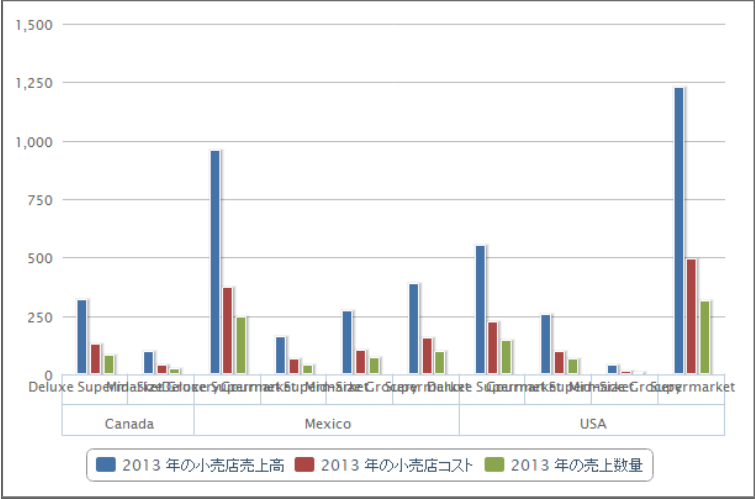
1. 表示

html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示

html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

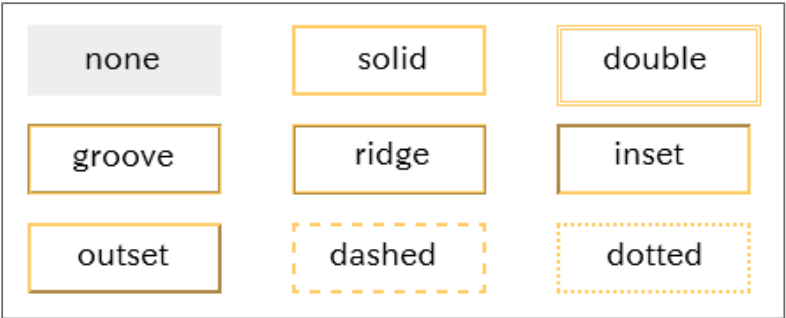
- 幅
- 画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
- 高
- 画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
- X
- 画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
- Y
- 画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

枠のスタイル

表示するアイテムの枠の形式を指定します。

- none : 枠は表示されません。表のセルなどの枠が重なり合う場合は他の値が優先されます。
- solid : 枠は1本の線で表示されます。
- double : 枠は二重線で表示されます。
- groove : 枠は立体的に窪んだ線で表示されます。
- ridge : 枠は立体的に隆起した線で表示されます。
- inset : 枠の内側が立体的に窪んだ線で表示されます。
- outset : 枠の内側が立体的に隆起した線で表示されます。
- dashed : 枠は破線で表示されます。
- dotted : 枠は点線で表示されます。



枠のスタイルを特定の種類にした場合には、一部の設定項目が下記の通り変わります。
設定した枠のスタイルの種類に合わせて、必要な項目を設定してください。

- 正方形/長方形の場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	必須
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

- インラインフレーム、BI表示アイテムの場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	任意
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

枠の太さ

表示する枠の太さをピクセル単位で指定します。

枠の色

枠の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

表示アイテム

見出し

画面アイテム「見出し」は、フォーム上に見出しを表示するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

見出しのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称を、見出し上に表示します。

見出しレベル

見出しの大きさを1～5の間で選択します。
数が小さいほど、表示が小さくなります。
「1」に設定した場合が、大きさは最大となり、「5」に設定した場合が、大きさは最小となります。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 登録
- Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
- Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
- Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
- html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
- html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示

見出しレベル1	見出し
見出しレベル2	見出し
見出しレベル3	見出し
見出しレベル4	見出し
見出しレベル5	見出し

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

横線

画面アイテム「横線」は、フォーム上に横線を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示

html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示

html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

太さ

表示する線の太さをピクセル単位で指定します。

色

線の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

縦線

画面アイテム「縦線」は、フォーム上に縦線を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 登録
Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上

表示スタイル

太さ

表示する線の太さをピクセル単位で指定します。

色

線の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

正方形/長方形

画面アイテム「正方形/長方形」は、フォーム上に正方形や長方形を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

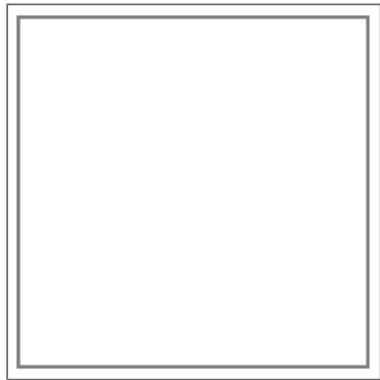
画面の種類（行項目）

1. 登録
Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
2. 編集
Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
3. 参照
Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

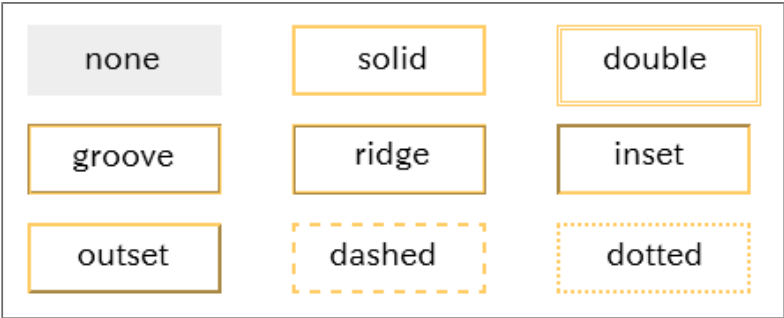
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

枠のスタイル

表示するアイテムの枠の形式を指定します。

- none：枠は表示されません。表のセルなどの枠が重なり合う場合は他の値が優先されます。
- solid：枠は1本の線で表示されます。
- double：枠は二重線で表示されます。
- groove：枠は立体的に窪んだ線で表示されます。
- ridge：枠は立体的に隆起した線で表示されます。
- inset：枠の内側が立体的に窪んだ線で表示されます。
- outset：枠の内側が立体的に隆起した線で表示されます。
- dashed：枠は破線で表示されます。
- dotted：枠は点線で表示されます。



枠のスタイルによる設定項目の違いについて

枠のスタイルを特定の種類にした場合には、一部の設定項目が下記の通り変わります。
設定した枠のスタイルの種類に合わせて、必要な項目を設定してください。

- 正方形/長方形の場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	必須
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

- インラインフレーム、BI表示アイテムの場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	任意
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

枠の太さ

表示する枠の太さをピクセル単位で指定します。

枠の色

枠の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

イメージ

画面アイテム「イメージ」は、フォーム上に任意の画像を表示するためのアイテムです。

基本設定

イメージ選択

配置した場所に表示する画像ファイルを指定します。
指定できる画像ファイルは、「フォーム・デザイナー」画面上の「画像アップロード」で事前にアップロード済みの画像ファイルに限られます。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

- 1. 登録
Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。
- 2. 編集
Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。
- 3. 参照
Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

- 1. 表示
html上に画面アイテムを存在させます。
- 2. 非表示
html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ラベル

画面アイテム「ラベル」は、フォーム上にラベル(太字や文字色などの装飾を行った文字)を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類 (行項目)

1. 登録

Webアプリケーション(標準)での登録画面の時の表示タイプを設定します。

2. 編集

Webアプリケーション(標準)での更新画面の時の表示タイプを設定します。

3. 参照

Webアプリケーション(標準)での参照(詳細)画面の時の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ (列項目)

1. 表示

html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示

html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ : 表示

ラベル内容を入力してください

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

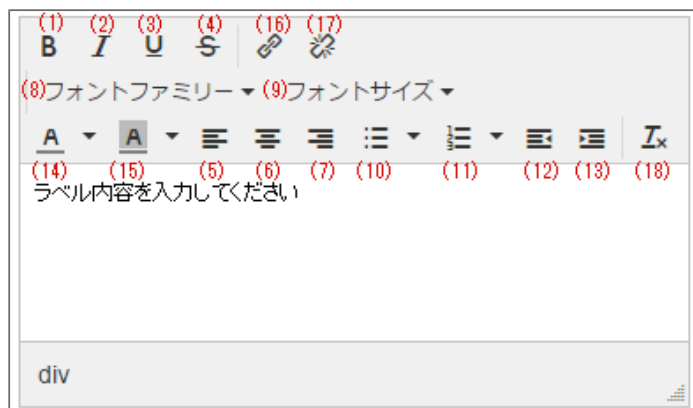
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ラベル編集

ラベル内容

ラベルに表示する文字、文字の書式を設定します。

ラベルの内容の編集時に利用できるツールバーと各部の説明



1. 太字

太字にしたい文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、太字で表示します。

2. 斜体(イタリック体)

斜体にしたい文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、斜体で表示します。

3. 下線

下線を付加したい文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、下線を表示します。

4. 取り消し線

取り消し線を付加したい文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、取り消し線を表示します。

5. 左揃え

文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を左揃えで表示します。

6. 中央揃え(センタリング)

文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を中央揃えで表示します。

7. 右揃え

文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を右揃えで表示します。

8. 文字の種類

文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字のフォントの種類を変更します。
選択できるフォントは、操作しているパソコンにインストール済みの英字フォントに限られます。

9. 文字サイズ

文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字のサイズを変更します。

10. 番号なしリスト

文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を番号なしリストの形式に変更します。

11. 番号つきリスト

文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を番号つきリストの形式に変更します。

12. 字下げを減らす

文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字の字下げのレベルを下げます。

13. 字下げを増やす

文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字の字下げのレベルを上げます。

14. 文字の色

文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字の色を変更します。

15. 背景の色

文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を蛍光ペンでマーキングしたように表示します。

16. リンクの挿入や編集

文字を選択状態(反転している状態)でクリックし、URLを設定すると、ハイパーリンクとして表示します。

17. リンクを解除

文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、ハイパーリンクを解除します。

18. 書式の削除

文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、設定済みの書式設定を削除します。

ラベルのエディタの「文字の種類」の選択状態について

- ラベルの内容の設定で、「文字の種類」の変更後にプロパティ画面を一度閉じてから再表示した際の「文字の種類」の選択状態は、ご利用のブラウザによって選択されたフォント名が表示される場合と初期値(“フォント”)が表示される場合があります。
こちらは、ラベルの内容を編集するエディタとしている「TinyMCE」というオープンソースのツールの仕様によるものとなりますので、ご了承ください。



コラム

画面アイテムの仕様についての補足は「[アイテム仕様の補足](#)」を参照してください。

入力アイテム

文字列

画面アイテム「文字列」は、文字や数値などを入力するためのアイテムです。
改行を含む長い文章は入力できません。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- [チェックフォーマットの記述例](#)

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。

日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携 (*)
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
入力・表示ともできません。
設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

テキスト

表示タイプ：参照

テキスト

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上

からの横位置をピクセル単位で指定します。

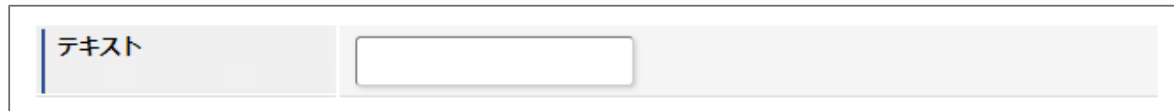
Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

複数行文字列

画面アイテム「複数行文字列」は、改行を伴う文字や数値などを入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。

最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。

スペースは入力されているものとして扱われます。

最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。

設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

■ チェックフォーマットの記述例

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。

日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携 (*)
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

フィールド高

入力欄の表示の高さをピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力できませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

表示タイプ：参照

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

数値

画面アイテム「数値」は、金額や個数などの数値を入力するためのアイテムです。

前にゼロを付加する"000123"のようなコード項目には利用できません。

基本設定

[前]ラベル / [後]ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

[前]ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

[後]ラベルに設定した名称を、入力欄の右に表示します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
 - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
 - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
 - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
 - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
 - 「[設定ファイルリファレンス](#)」 - 「[数値形式マスタ](#)」 で用意した全てのフォーマット



コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
<https://issue.intra-mart.jp/issues/27791>

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。



注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「[クライアントサイド JavaScript](#)」 - 「[ImDecimalFormatter](#)」を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「[設定ファイルリファレンス](#)」 - 「[数値形式マスタ](#)」から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123
	■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123
	■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123,456,789.123

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
アカウント設定	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している - 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 123456789,123 123 456 789,123
テナント設定	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している - 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 123456789,123 123.456.789,123
システム設定	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している - 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123'456'789.123」の場合の例です。 123456789.123 123'456'789.123

 **コラム**

クライアントサイドスクリプトAPIにおいて、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
 チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
 チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
 (「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
 ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
 同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
 そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
 チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
 ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
 日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
 セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
 「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
 初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携 (*)
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照

入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

数値	0
----	--------------------------------

表示タイプ：参照

数値	0
----	--------------------------------

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。

数値	0
----	--------------------------------

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。
チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

画面アイテム「関数」は日付や数値の計算や関数を利用して処理するためのアイテムです。

“+”や“-”などの演算子や、IM-FormaDesigner for Accel Platformで用意している各種関数を利用することができます。

基本設定

[前]ラベル / [後]ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

[前]ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

[後]ラベルに設定した名称を、入力欄の右に表示します。

式

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。

他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」(※)で指定します。

固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「"」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

利用できる演算子、関数

- [演算子](#)
- [文字列関数](#)
- [条件式関数](#)
- [数値系関数](#)
- [日付関数](#)
- [ユーザ情報関数](#)
- [ワークフロー関数\(申請情報\)](#)
- [ワークフロー関数\(案件情報\)](#)

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。

利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列

- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値

- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付

- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ

- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド

- 2017Summerまでの 表示フォーマットを無効にしたとき と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
 - 2017Summerまでの 表示フォーマットを有効にしたとき と同じ動作です。
- アカウント設定
 - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
 - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
 - 「設定ファイルリファレンス」 - 「数値形式マスタ」 で用意した全てのフォーマット

 コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
<https://issue.intra-mart.jp/issues/27791>

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。

 注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「クライアントサイド JavaScript」 - 「ImDecimalFormatter」 を参照してください。

 注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「設定ファイルリファレンス」 - 「数値形式マスタ」 から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
----------	--------------------	------

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している - 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	123456789.123 123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している - 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	123456789.123 123,456,789.123
アカウント設定	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している - 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 123456789,123 123 456 789,123
テナント設定	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している - 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 123456789,123 123.456.789,123
システム設定	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している - 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123'456'789.123」の場合の例です。 123456789.123 123'456'789.123

 **コラム**

クライアントサイドスクリプトAPIにおいて、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。
指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。
詳細は「[一般ユーザ操作ガイド](#)」-「[日付と時刻の形式を設定する](#)」を参照してください。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。

入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。

項目に入力されていない場合はチェックしません。

スペースは入力されているものとして扱われます。

最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。

スペースは入力されているものとして扱われます。

最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。

設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

■ チェックフォーマットの記述例

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。

項目に入力されていない場合はチェックしません。

「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。

最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。

「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。

最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。

チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
 チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
 (「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
 ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
 同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
 そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
 チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
 ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
 アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

☐

評価値

表示タイプ：参照

評価値

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。

評価値

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

日付

画面アイテム「日付」は、1つの日付を入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。

指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。

詳細は「[一般ユーザ操作ガイド](#)」-「[日付と時刻の形式を設定する](#)」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。

アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。

日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請

ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請

ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認

ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照

ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力できませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

日付

31

表示タイプ：参照

日付

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。

日付

31

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

期間

画面アイテム「期間」は、開始日・終了日等の一定期間を表す日付を入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。

指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。

詳細は「[一般ユーザ操作ガイド](#)」-「[日付と時刻の形式を設定する](#)」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。

アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

各設定項目の[始]は、期間の開始日、[終]は、期間の終了日に対応します。

詳細設定

各設定項目の[始]は、期間の開始日、[終]は、期間の終了日に対応します。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。

日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携 (*)
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

2つの日付の入力欄の間に表示する期間の範囲を表す文字を設定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
入力できませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
入力・表示ともできません。
設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



期間 2012/12/21 31 - 2012/12/21 31

表示タイプ：参照



期間 2012/12/21 - 2012/12/21

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

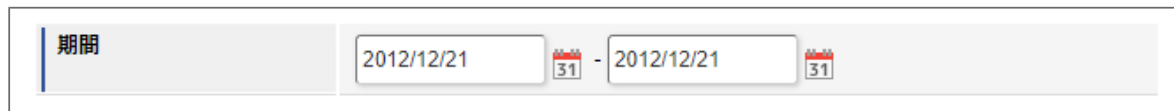
Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

各設定項目の[始]は、期間の開始日、[終]は、期間の終了日に対応します。

セパレータスタイル

セパレータの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

一覧選択

画面アイテム「一覧選択」は、データベースから入力値を検索して入力するためのアイテムです。
外部連携の設定を行うことで、一覧選択を実行することができます。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
 - 2017Summerまでの表示フォーマットを無効にしたときと同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
 - 2017Summerまでの表示フォーマットを有効にしたときと同じ動作です。
- アカウント設定
 - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
 - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
 - 「設定ファイルリファレンス」 - 「数値形式マスタ」で用意した全てのフォーマット



コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
<https://issue.intra-mart.jp/issues/27791>

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。



注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「クライアントサイド JavaScript」 - 「ImDecimalFormatter」を参照してください。

**注意**

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「[設定ファイルリファレンス](#)」 - 「[数値形式マスタ](#)」から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123 ■ 123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123 ■ 123,456,789.123
アカウント設定	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ■ 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ■ 123456789,123 ■ 123 456 789,123
テナント設定	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ■ 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ■ 123456789,123 ■ 123.456.789,123

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
システム設定	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している - 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123'456'789.123」の場合の例です。 123456789.123 123'456'789.123

 **コラム**

クライアントサイドスクリプトAPIにおいて、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。

指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。

詳細は「[一般ユーザ操作ガイド](#)」-「[日付と時刻の形式を設定する](#)」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。

アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。

入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。

項目に入力されていない場合はチェックしません。

スペースは入力されているものとして扱われます。

最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
 スペースは入力されているものとして扱われます。
 最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
 設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

■ チェックフォーマットの記述例

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
 項目に入力されていない場合はチェックしません。
 「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
 最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
 「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
 最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
 チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
 チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
 (「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
 ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

外部連携

データソース名

データソース定義で定義済みのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。
 クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

検索アイコンをクリックした際に表示する選択できる項目一覧のレイアウトを設定します。

- 画面タイトル
 - 別画面として表示する画面のタイトルを入力します。
- 簡易検索機能
 - チェックがオンの場合、一覧選択画面上で簡易検索機能を利用できるようにします。
- 詳細検索機能
 - チェックがオンの場合、一覧選択画面上で詳細検索機能を利用できるようにします。
- 検索結果表示（初期表示時）
 - チェックがオンの場合、初期表示時に検索結果を表示します。
対象データ件数が多いときの初期表示時のパフォーマンスを考慮し、初期表示時に検索結果を表示させたくない場合に設定します。
- 項目幅の自動調整
 - チェックがオンの場合、検索結果表の列の項目幅が表の幅に収まるように自動調整をします。
チェックがオフの場合、検索結果表の列の項目幅を自動調整せずに、一定の幅で表示します。
表の幅に収まらない場合はスクロールバーを表示します。
- 初期表示のソート順
 - 初期表示時の検索結果表のソート対象項目と並び順（昇順/降順）を指定します。
- 非表示項目、一覧表示項目
 - クエリの取得値の設定項目のうち、一覧に表示する項目を「一覧表示項目」の枠に、一覧に表示しない項目を「非表示項目」に設定します。



コラム

一覧選択画面での簡易検索機能は、出力値に設定されているすべての「文字列型」の列に対して部分一致で行います。

一覧選択画面での詳細検索機能は、列毎に詳細な検索をすることができます。



注意

IM-FormaDesigner 2022Winter から項目幅の自動調整と初期表示のソート順の設定を追加しました。

- IM-FormaDesigner 2022Spring 以前から、アップデートして、定義情報を変更しない状態の動作は、2022Spring 以前と変更ありません。
「[画面設計書出力](#)」での出力値は空白で出力されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義済みのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。

クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」(*)を指定します。
任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「"」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。
- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
 - [演算子](#)

- [文字列関数](#)
- [条件式関数](#)
- [数値系関数](#)
- [日付関数](#)
- [ユーザ情報関数](#)
- [ワークフロー関数\(申請情報\)](#)
- [ワークフロー関数\(案件情報\)](#)

取得値設定

選択したクエリで取得するデータのどの取得項目を画面アイテムに表示するかを設定します。

1. ラジオボタン

「一覧選択」の入力欄に表示する値を設定します。

取得項目が1つの場合は、変更できません。

2. 取得値を表示する画面アイテム

フォーム上の他の画面アイテムに取得するデータを表示する場合に、セレクトボックスからフィールド識別名で設定します。

- 取得値に設定できるアイテム
 - 文字列 (product_72_textbox)
 - 複数行文字列 (product_72_textarea)
 - 数値 (product_72_number)
 - 日付 (product_72_date)
 - 期間 (product_72_term)
 - 一覧選択 (互換用) (product_72_itemSelect)
 - 隠しパラメータ (product_72_hidden)

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。

日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携 (*)
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照

入力できませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

ラベル 

表示タイプ：参照

ラベル

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。

ラベル 

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

画面アイテム「明細テーブル」は、アプリの実行時に自由に行を追加して表形式で入力するためのアイテムです。

項目

- 基本設定
- 詳細設定
- 表示スタイル
- 列プロパティ概要
- 列プロパティ(文字列)
- 列プロパティ(数値)
- 列プロパティ(日付)
- 列プロパティ(関数)
- 列プロパティ(隠しパラメータ)
- 列プロパティ(一覧選択)
- 列プロパティ(ラジオボタン)
- 列プロパティ(セレクトボックス)
- 明細テーブルの行のコピー、挿入、削除方法

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、アイテムの上に表示します。

行の定義

テーブルに追加できる行について設定します。

行追加可能

チェックをオンにした場合、アプリケーションの実行時に行を追加することができます。

行数

「行追加可能」のチェックがオフの場合、テーブルに表示する行数を設定できます。

最大行数

「行追加可能」のチェックがオンの場合、テーブルに追加できる行の最大値を設定できます。
入力した行数まで追加できるようになるため、1以上の値を設定してください。

列の定義

▼ 列の定義

テーブルに表示する列の設定を行ってください。

(1) 表示

(2) 列名

(3)

(4) タイプ

(5) 設定

(6)

1

☒

列

文字列

(7)

2

☒

列

文字列

3

☒

列

文字列

4

☒

列

文字列

明細テーブルの列を設定します。

1. 列番号

列の表示順を設定します。

列の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

2. 表示

列の表示/非表示を設定します。

チェックがオフの場合、列は画面に表示されませんが、値の設定・取得等に利用することができます。

タイプが「隠しパラメータ」の場合、必ずチェックがオフ(非表示)になります。

3. 列名

列の名称を設定します。

明細テーブルに対応したアプリケーションテーブル上での、列の論理名として利用します。

4. タイプ

列のデータ型を設定します。

関数や一覧選択等の他の画面アイテムを参照できるタイプの場合には、「関数」「一覧選択」で利用する場合と同様に、対象のフィールド識別IDを利用することで指定できます。

5. 設定

クリックすると、列の詳細設定(入力フィールド、入力チェック等)画面に遷移します。

6. 追加

クリックすると、明細テーブルの列を追加します。

7. 削除

クリックすると、明細テーブルの列を削除します。

コラム

■ 明細テーブルの表示について

明細テーブルのテーブル、列の表示・非表示、表示タイプについては、以下の通りの動作となります。

明細テーブルの「列の定義」での列の表示・非表示は、テーブルの表示タイプが表示であれば、列の定義を非表示にした場合も値を保持することができます。

表示タイプは、列の表示タイプが設定されている場合には、テーブルの表示タイプより列の表示タイプの設定が優先されます。

テーブルの表示タイプを非表示とした場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

テーブル・列の表示タイプの設定で非表示とした場合には、データは保持されません。

テーブル識別ID

明細テーブル、グリッドテーブルに対応したアプリケーションテーブルの物理名として利用します。
フォーム間でテーブル同士の値の引継ぎをする場合は、テーブル識別IDを同じにする必要があります。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

列番号表示(参照時)

明細テーブルのテーブルに対する表示タイプが「参照」となっている場合に、左の列番号の表示を設定します。
チェックがオンになっている場合、入力時と同様の列番号を表示します。

- 列番号表示が有効の場合

明細テーブル				
	列	列	列	列
1	ABC	DEF	GHI	JKL
2	MNO	PQR	STU	VWX

- 列番号表示が無効の場合

明細テーブル			
列	列	列	列
ABC	DEF	GHI	JKL
MNO	PQR	STU	VWX

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
入力できませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。
設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

明細テーブル

+	列	列	列	列
1				

表示タイプ：参照

明細テーブル

列	列	列	列

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

列のサイズ・配置

列のサイズ
列の入力欄の標示の幅をピクセル単位で指定します。

横位置揃え
列の値の横位置を左寄せ、中央寄せ、右寄せのいずれかに設定します。

表示スタイル

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント
文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ
文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色
文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字
文字を太字で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

列プロパティ概要

列プロパティは、「基本設定」 -> 「列の定義」 -> 「設定」をクリックして設定することができます。
明細テーブルの列プロパティには、以下のタイプがあります。
それぞれのタイプで、列プロパティの設定内容が異なります。

タイプ	説明
文字列	文字や数値などで短い文章を入力するときに使用するタイプです。
数値	金額や個数などの数値を入力するときに使用するタイプです。
日付	日付を入力するときに使用するタイプです。
関数	日付や数値の計算や、関数を使用して処理するときに使用するタイプです。
隠しパラメータ	フォーム上に表示させずに、値を保持するときに使用するタイプです。
一覧選択	外部連携を使用し、入力値を一覧から選択して入力するときに使用するタイプです。
ラジオボタン	複数項目から入力値をボタンで、1つ選択するときに使用するタイプです。
セレクトボックス	複数項目から入力値をプルダウンで、1つ選択するときに使用するタイプです。

列プロパティ(文字列)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。
列に設定したタイプが「文字列」の場合には、以下の項目を設定します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。
入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
スペースは入力されているものとして扱われます。
最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

■ チェックフォーマットの記述例

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携 (*)
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。

列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。

テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照

ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(数値)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。

列に設定したタイプが「数値」の場合には、以下の項目を設定します。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
 - 2017Summerまでの **表示フォーマットを無効にしたとき** と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
 - 2017Summerまでの **表示フォーマットを有効にしたとき** と同じ動作です。
- アカウント設定
 - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
 - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
 - 「[設定ファイルリファレンス](#)」 - 「[数値形式マスタ](#)」 で用意した全てのフォーマット



コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
<https://issue.intra-mart.jp/issues/27791>

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。



注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。
使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「[クライアントサイド JavaScript](#)」 - 「[ImDecimalFormatter](#)」を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「[設定ファイルリファレンス](#)」 - 「[数値形式マスタ](#)」から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。
以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123
	■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123
	■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123,456,789.123

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
アカウント設定	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している - 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 123456789,123 123 456 789,123
テナント設定	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している - 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 123456789,123 123.456.789,123
システム設定	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している - 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123'456'789.123」の場合の例です。 123456789.123 123'456'789.123

 **コラム**

クライアントサイドスクリプトAPIにおいて、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。
項目に入力されていない場合はチェックしません。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。
「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。
最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。
 チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。
 チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。
 (「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)
 ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
 同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
 そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
 チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
 ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
 日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
 セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
 「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
 初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携 (*)
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。

列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。

テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照

ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(日付)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。

列に設定したタイプが「日付」の場合には、以下の項目を設定します。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。

指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。

詳細は「[一般ユーザ操作ガイド](#)」-「[日付と時刻の形式を設定する](#)」を参照してください。

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。

アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。

日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。

コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携 (*)
 - 前処理
 - 初期表示イベント

コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。

列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。

テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
入力・表示ともできません。
設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ (関数)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。

列に設定したタイプが「関数」の場合には、以下の項目を設定します。

式

あらかじめ指定した値や、フォーム内の他の画面アイテムの値などを参照して処理するための計算や関数を設定します。

他の画面アイテムの値を参照する場合には、参照する画面アイテムの「フィールド識別ID」（※）で指定します。

固定の文字を指定する場合は、ダブルクォーテーション「"」で囲みます。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

利用できる演算子、関数

- [演算子](#)
- [文字列関数](#)
- [条件式関数](#)
- [数値系関数](#)
- [日付関数](#)
- [ユーザ情報関数](#)
- [ワークフロー関数\(申請情報\)](#)
- [ワークフロー関数\(案件情報\)](#)

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。

利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列

- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値

- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付

- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ

- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

表示フォーマット(数値)

数値のフォーマットを指定します。

指定可能なフォーマット

- 桁区切りなし・小数点ピリオド
 - 2017Summerまでの 表示フォーマットを無効にしたとき と同じ動作です。
- 3桁カンマ・小数点ピリオド
 - 2017Summerまでの 表示フォーマットを有効にしたとき と同じ動作です。
- アカウント設定
 - ログインユーザのアカウントコンテキストに基づくフォーマットです。
- テナント設定
 - テナントのデフォルト設定に基づくフォーマットです。
- システム設定
 - 「[設定ファイルリファレンス](#)」 - 「[数値形式マスタ](#)」 で用意した全てのフォーマット



コラム

IM-FormaDesigner 2018Summer にて以下の対応が行われました。

- 数値表示のフォーマット処理を改善します。
<https://issue.intra-mart.jp/issues/27791>

これにより、値の変換処理はすべてクライアント側で行われます。



注意

設定によっては、以下の表示フォーマットは値の変換時にサーバへ通信を行います。使用の際は十分な検証を行ってください。

- アカウント設定
- テナント設定
- システム設定

詳細は「[クライアントサイド JavaScript](#)」 - 「[ImDecimalFormatter](#)」 を参照してください。



注意

アイテムのプロパティに指定しているフォーマットを「設定ファイルリファレンス」 - 「数値形式マスタ」から削除した場合の動作は以下の通りです。

- フォーム編集画面、実行画面では「桁区切りなし・小数点ピリオド」として動作します。
- フォーム編集画面で該当アイテムのプロパティダイアログを表示すると画面に警告メッセージを表示します。
- 実行画面を表示すると該当アイテム分のログ（WARNレベル）を出力します。

表示フォーマットを変更する場合は、一度プロパティを変更してからフォームの更新を行ってください。

入力フォーマット

アイテムに手入力した際に有効な数値として扱われるフォーマットは、表示フォーマットの設定に基づきます。以下に合致しないフォーマットで入力すると値の欠落が発生する可能性があります。

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
桁区切りなし・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123 ■ 123,456,789.123
3桁カンマ・小数点ピリオド	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にピリオドを使用している ■ 桁区切り記号にカンマを使用し、小数点記号にピリオドを使用している	■ 123456789.123 ■ 123,456,789.123
アカウント設定	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にアカウントコンテキストに基づく小数点記号を使用している ■ 桁区切り記号および小数点記号にアカウントコンテキストに基づく記号を使用している	アカウントコンテキストの指定フォーマットが「123 456 789,123」の場合の例です。 ■ 123456789,123 ■ 123 456 789,123
テナント設定	■ 桁区切り記号がなく、小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく小数点記号を使用している ■ 桁区切り記号および小数点記号にテナントのデフォルト設定に基づく記号を使用している	テナントのデフォルト設定の指定フォーマットが「123.456.789,123」の場合の例です。 ■ 123456789,123 ■ 123.456.789,123

表示フォーマット	有効な数値として扱われるフォーマット	入力値例
システム設定	- 桁区切り記号がなく、小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく小数点記号を使用している - 桁区切り記号および小数点記号にプロパティに指定したフォーマットに基づく記号を使用している	プロパティに指定したフォーマットが「123'456'789.123」の場合の例です。 123456789.123 123'456'789.123

 **コラム**

クライアントサイドスクリプトAPIにおいて、取得できる値およびパラメータとして指定可能な値のフォーマットは、表示フォーマットの設定に関わらず「桁区切りなし・小数点ピリオド」です。

表示フォーマット(日付)

参照時の入力欄の日付の表示形式を選択します。

指定しない場合は、「日付と時刻の表示形式」で設定した「日付（標準表示）」のフォーマットで表示します。

入力時の日付の表示形式は「個人設定」-「日付と時刻の形式」-「日付（入力）」の設定に基づきます。

詳細は「[一般ユーザ操作ガイド](#)」-「[日付と時刻の形式を設定する](#)」を参照してください。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。

入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。

項目に入力されていない場合はチェックしません。

スペースは入力されているものとして扱われます。

最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。

スペースは入力されているものとして扱われます。

最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。

設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

- [チェックフォーマットの記述例](#)

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

最小入力値

入力・計算された値が、指定の値以上となっているかをチェックします。

項目に入力されていない場合はチェックしません。

「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。

最大入力値と同じ、または最大入力値より小さい値を設定してください。

最大入力値

入力・計算された値が、指定の値以下となっているかをチェックします。

「負数入力」のチェックがオンの場合には、負数(0より小さい値)を設定することができます。

最小入力値と同じ、または最小入力値より大きい値を設定してください。

負数入力許可(数値)

入力・計算された値に、0未満のマイナスの値を設定してよいかを設定します。

チェックがオフの場合、0未満のマイナスの値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数入力許可(数値)

入力・計算された値に、小数の値を設定してよいかを設定します。

チェックがオフの場合、小数の値が入力されたときにエラーとして扱います。

小数部最大入力桁数(数値)

入力・計算された値の小数点以下の桁数を設定します。

(「小数入力許可」のチェックがオンの場合のみ表示する設定項目です。)

ここで設定した桁数は、テーブル設定の対応する列の小数点以下の桁数と一致するように設定してください。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。

列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。

テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
入力できませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
入力・表示ともできません。
設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(隠しパラメータ)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。

列に設定したタイプが「隠しパラメータ」の場合には、以下の項目を設定します。

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。

利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列

- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値

- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付

- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ

- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。

列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。

テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
html上に画面アイテムを存在させません。

列プロパティ(一覧選択)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。

列に設定したタイプが「一覧選択」の場合には、データソース設定のリンクからデータソースに関する設定を入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

データソース定義で定義済みのクエリー一覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

一覧選択画面

検索アイコンをクリックした際に表示する選択できる項目一覧のレイアウトを設定します。

- 画面タイトル
 - 別画面として表示する画面のタイトルを入力します。
- 簡易検索機能
 - チェックがオンの場合、一覧選択画面上で簡易検索機能を利用できるようにします。
- 詳細検索機能
 - チェックがオンの場合、一覧選択画面上で詳細検索機能を利用できるようにします。
- 検索結果表示（初期表示時）
 - チェックがオンの場合、初期表示時に検索結果を表示します。
対象データ件数が多いときの初期表示時のパフォーマンスを考慮し、初期表示時に検索結果を表示させたくない場合に設定します。
- 項目幅の自動調整
 - チェックがオンの場合、検索結果表の列の項目幅が表の幅に収まるように自動調整をします。
チェックがオフの場合、検索結果表の列の項目幅を自動調整せずに、一定の幅で表示します。
表の幅に収まらない場合はスクロールバーを表示します。
- 初期表示のソート順
 - 初期表示時の検索結果表のソート対象項目と並び順（昇順/降順）を指定します。
- 非表示項目、一覧表示項目
 - クエリの取得値の設定項目のうち、一覧に表示する項目を「一覧表示項目」の枠に、一覧に表示しない項目を「非表示項目」に設定します。



コラム

一覧選択画面での簡易検索機能は、出力値に設定されているすべての「文字列型」の列に対して部分一致で行います。
一覧選択画面での詳細検索機能は、列毎に詳細な検索をすることができます。



注意

IM-FormaDesigner 2022Winter から項目幅の自動調整と初期表示のソート順の設定を追加しました。

- IM-FormaDesigner 2022Spring 以前から、アップデートして、定義情報を変更しない状態の動作は、2022Spring 以前と変更ありません。
「[画面設計書出力](#)」での出力値は空白で出力されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義済みのクエリー一覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目
データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」(*)を指定します。
任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「"」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。
 - [演算子](#)
 - [文字列関数](#)
 - [条件式関数](#)
 - [数値系関数](#)
 - [日付関数](#)
 - [ユーザ情報関数](#)
 - [ワークフロー関数\(申請情報\)](#)
 - [ワークフロー関数\(案件情報\)](#)

取得値設定

選択したクエリで取得するデータのどの取得項目を画面アイテムに表示するかを設定します。

1. ラジオボタン

「一覧選択」の入力欄に表示する値を設定します。

取得項目が1つの場合は、変更できません。

2. 取得値を表示する画面アイテム

フォーム上の他の画面アイテムに取得するデータを表示する場合に、セレクトボックスからフィールド識別名で設定します。

- 取得値に設定できるアイテム
 - 文字列 (product_72_textbox)
 - 複数行文字列 (product_72_textarea)
 - 数値 (product_72_number)
 - 日付 (product_72_date)
 - 期間 (product_72_term)
 - 一覧選択 (互換用) (product_72_itemSelect)
 - 隠しパラメータ (product_72_hidden)

フィールド値入力可

チェックをオンにすると、手入力で入力値を登録できます。

クリアボタン配置

チェックをオンにすると、クリアボタンが配置されます。

アプリケーションの実行時にクリアボタンをクリックすると、入力値をクリアします。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

半角英数字のみ

チェックをオンにすると、入力された内容が半角英数字のみとなっているかをチェックします。

入力可能な文字はa-z,A-Z,0-9のいずれかのみで、記号はエラーとして扱います。

最小入力文字数

画面アイテムに指定の文字数以上の文字が入力されているかをチェックします。
 項目に入力されていない場合はチェックしません。
 スペースは入力されているものとして扱われます。
 最大入力文字数と同じ、または最大入力文字数より小さい値を設定してください。

最大入力文字数

画面アイテムに指定の文字数までしか入力できないようにします。
 スペースは入力されているものとして扱われます。
 最小入力文字数と同じ、または最小入力文字数より大きい値を設定してください。

カスタム入力チェック

入力文字の種類や入力チェック機能をカスタマイズして設定できます。

チェックフォーマット

入力できる文字列のパターンを正規表現で設定します。
 設定したパターンに合わない文字列が入力された場合、「エラーメッセージ」に設定したメッセージを表示します。

■ チェックフォーマットの記述例

エラーメッセージ

チェックフォーマットに設定したパターンに合わなかった場合に表示するエラーメッセージを登録します。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
 同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
 そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名（論理名）として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
 チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
 ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。
 日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。
 セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。
 「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。
 初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携 (*)
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。

列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。

テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照

ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(ラジオボタン)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。

列に設定したタイプが「ラジオボタン」の場合には、選択データのリンクから選択データに関する設定を入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

■ プロパティ設定値

固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

■ データソース設定値

データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。

選択できる値は右の列の＋、－によって追加、削除することができます。

■ 項目番号

項目の表示順を設定します。

項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

■ 表示値

画面上に表示する値を設定します。

■ 送信値

画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。

複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義済みのクエリー一覧から、使用するクエリを選択します。

クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義済みのクエリー一覧から、使用するクエリを選択します。

クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

■ 条件項目

データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。

同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」(※)を指定します。

任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「"」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

■ 利用できる演算子、関数は以下の通りです。

- [演算子](#)
- [文字列関数](#)
- [条件式関数](#)
- [数値系関数](#)
- [日付関数](#)
- [ユーザ情報関数](#)
- [ワークフロー関数\(申請情報\)](#)
- [ワークフロー関数\(案件情報\)](#)

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値

画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値

画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。

複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。

日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。

「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。（幅を超えた分は次の行に折り返します。）

「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。

列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。

テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

1. 申請

ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請

ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認

ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照

ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力できませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

列プロパティ(セレクトボックス)

列の設定をクリックして遷移する設定画面です。

列に設定したタイプが「セレクトボックス」の場合には、選択データのリンクから選択データに関する設定を入力フィールド設定のリンクから、表示・入力フィールドに関する設定を行います。

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

■ プロパティ設定値

固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

■ データソース設定値

データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。

選択できる値は右の列の＋、－によって追加、削除することができます。

■ 項目番号

項目の表示順を設定します。

項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

■ 表示値

画面上に表示する値を設定します。

■ 送信値

画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。

複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用で

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義済みのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義済みのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。
クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目

データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。
同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」(*)を指定します。
任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「"」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。

- [演算子](#)
- [文字列関数](#)
- [条件式関数](#)
- [数値系関数](#)
- [日付関数](#)
- [ユーザ情報関数](#)
- [ワークフロー関数\(申請情報\)](#)
- [ワークフロー関数\(案件情報\)](#)

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値

画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値

画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。
複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。

日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携 (*)
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

表示タイプ（列）

「列単位で表示タイプを設定する」のチェックがオンの場合、列に対して表示タイプを設定します。

列の表示タイプを設定している場合には、テーブルの表示タイプよりも優先されます。
テーブルの表示タイプを「入力可」「非表示」としている場合には、列の表示タイプを設定することはできません。

画面の種類（行項目）

- 1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
- 2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
- 3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
- 4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

- 1. 表示・入力可
入力できる画面アイテムとして表示します。
- 2. 表示・参照
入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
- 3. 非表示
入力・表示ともできません。
設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

明細テーブルの行のコピー、挿入、削除方法

行のコピー、挿入、削除方法について説明します。

行のコピー

行のコピーを行います。

- 1. コピー対象の番号を右クリックします。

明細テーブル				
+	列	列	列	列
1	aaa	bbb	ccc	ddd
2	eee	fff	ggg	hhh
3	iii	jjj	kkk	lll
4	mmm	nnn	ooo	ppp

- 2. 「コピー」をクリックします。

明細テーブル

+	列	列	列	列
1		bbb	ccc	ddd
2		fff	ggg	hhh
3	iii	jjj	kkk	lll
4	mmm	nnn	ooo	ppp

3. 挿入対象の番号で右クリックし、「コピーした行の挿入」をクリックします。

明細テーブル

+	列	列	列	列
1	aaa	bbb	ccc	ddd
		fff	ggg	hhh
		jjj	kkk	lll
		nnn	ooo	ppp

4. コピーした行が挿入されます。

明細テーブル

+	列	列	列	列
1	aaa	bbb	ccc	ddd
2	aaa	bbb	ccc	ddd
3	eee	fff	ggg	hhh
4	iii	jjj	kkk	lll
5	mmm	nnn	ooo	ppp

行の挿入

行の挿入を行います。

1. 「+」アイコンまたは、挿入対象の番号で右クリックし、「挿入」をクリックします。

明細テーブル

+	列	列	列	列
1	aaa	bbb	ccc	ddd
2	aaa	bbb	ccc	ddd
		fff	ggg	hhh
		jjj	kkk	lll
		nnn	ooo	ppp

2. 行が挿入されます。

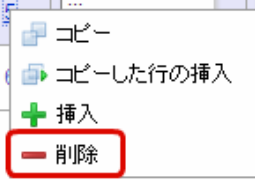
明細テーブル				
+	列	列	列	列
1	aaa	bbb	ccc	ddd
2	aaa	bbb	ccc	ddd
3				
4	eee	fff	ggg	hhh
5	iii	jjj	kkk	lll
6	mmm	nnn	ooo	ppp

行の削除

行の削除を行います。

- 1. 削除対象の番号で右クリックし、「削除」をクリックします。

明細テーブル				
+	列	列	列	列
1	aaa	bbb	ccc	ddd
2	aaa	bbb	ccc	ddd
3				
4	eee	fff	ggg	hhh
5	iii	jjj	kkk	lll
6	mmm	nnn	ooo	ppp



- コピー
- コピーした行の挿入
- 挿入
- 削除

- 2. 行が削除されます。

明細テーブル				
+	列	列	列	列
1	aaa	bbb	ccc	ddd
2	aaa	bbb	ccc	ddd
3				
4	eee	fff	ggg	hhh
5	mmm	nnn	ooo	ppp



コラム

- スマートフォンの場合
スマートフォンでは、以下の処理を行うことができます。
 - 行のコピー
 - 行の削除行のコピーを行います。
 - 1. 番号をクリックし、コピー対象を選択します。

明細テーブル 編集				
+	列	列	列	列
1	aaa	bbb	ccc	ddd
2	eee	fff	ggg	hhh

2. 「+」をクリックします。

明細テーブル 編集				
+	列	列	列	列
1	aaa	bbb	ccc	ddd
2	eee	fff	ggg	hhh

3. コピーした行が挿入されます。

明細テーブル 編集				
+	列	列	列	列
1	aaa	bbb	ccc	ddd
2	eee	fff	ggg	hhh
3	aaa	bbb	ccc	ddd

行の削除を行います。

1. 「編集」 ボタンをクリックします。

明細テーブル 編集				
+	列	列	列	列
1	aaa	bbb	ccc	ddd
2	eee	fff	ggg	hhh
3	aaa	bbb	ccc	ddd

2. 「-」をクリックします。

明細テーブル 編集終了				
+	列	列	列	列
-	aaa	bbb	ccc	ddd
-	eee	fff	ggg	hhh
-	aaa	bbb	ccc	ddd

3. 「編集終了」 ボタンをクリックします。

明細テーブル 編集終了				
+	列	列	列	列
-	aaa	bbb	ccc	ddd
-	eee	fff	ggg	hhh

4. 対象行が削除されます。

明細テーブル 編集

+	列	列	列	列
1	aaa	bbb	ccc	ddd
2	eee	fff	ggg	hhh

チェックボックス

画面アイテム「チェックボックス」は、複数項目から入力値を選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

外部連携

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値
固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。
- データソース設定値
データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。
選択できる値は右の列の＋、－によって追加、削除することができます。

- 項目番号
項目の表示順を設定します。
項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。
- 表示値

画面に表示する値を設定します。

- 送信値

画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。

複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義済みのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。

クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義済みのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。

クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目

データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。

同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」(※)を指定します。

任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「"」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。

- [演算子](#)
- [文字列関数](#)
- [条件式関数](#)
- [数値系関数](#)
- [日付関数](#)
- [ユーザ情報関数](#)
- [ワークフロー関数\(申請情報\)](#)
- [ワークフロー関数\(案件情報\)](#)

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値

画面に表示する値に設定します。

2. 送信値

画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。

複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。

日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値(送信値)を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携 (*)
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。

「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。(幅を超えた分は次の行に折り返します。)

「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

項目幅

各選択肢の表示値の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
入力できませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
入力・表示ともできません。
設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

☒ チェックボックス ☐ 項目名未定義

表示タイプ：参照

☒ チェックボックス ☐ 項目名未定義

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。

チェックボックス	☐ 項目名未定義
-----------------	---------------------------------

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

ラジオボタン

画面アイテム「ラジオボタン」は、複数項目から入力値を1つ選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

外部連携

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。

選択できる値は右の列の+、-によって追加、削除することができます。

- 項目番号

項目の表示順を設定します。

項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。

複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義済みのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。

クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義済みのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。

クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目

データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。

同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」(※)を指定します。

任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「"」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。

- [演算子](#)
- [文字列関数](#)
- [条件式関数](#)
- [数値系関数](#)
- [日付関数](#)
- [ユーザ情報関数](#)
- [ワークフロー関数\(申請情報\)](#)
- [ワークフロー関数\(案件情報\)](#)

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値

画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値

画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。

複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。

日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値(送信値)を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携 (*)
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

配置方向

項目を配置する方向を設定します。

「横並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて横方向に配置します。(幅を超えた分は次の行に折り返します。)

「縦並び」を選択した場合には、設定した項目はアイテムサイズの幅に合わせて縦方向に配置します。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

項目幅

各選択肢の表示値の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
入力できませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
入力・表示ともできません。
設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

ラジオボタン ☒ 項目名未定義

表示タイプ：参照

ラジオボタン ☐ 項目名未定義

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。

ラジオボタン	☐ 項目名未定義
--------	------------------------------

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

セレクトボックス

画面アイテム「セレクトボックス」は、複数項目から入力値を1つ選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

外部連携

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。

選択できる値は右の列の+、-によって追加、削除することができます。

- 項目番号

項目の表示順を設定します。

項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。

複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義済みのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。

クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義済みのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。

クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目

データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。

同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」(*)を指定します。

任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「"」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。

- [演算子](#)
- [文字列関数](#)
- [条件式関数](#)
- [数値系関数](#)
- [日付関数](#)
- [ユーザ情報関数](#)
- [ワークフロー関数\(申請情報\)](#)
- [ワークフロー関数\(案件情報\)](#)

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値

画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値

画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。

複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名（論理名）として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。

日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携（*）
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
入力できませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
入力・表示ともできません。
設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

セレクトボックス

表示タイプ：参照

セレクトボックス

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

リストボックス

画面アイテム「リストボックス」は、複数項目から入力値を選択するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

外部連携

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

項目の定義

画面アイテムで選択できる値を設定します。

選択できる値は右の列の＋、－によって追加、削除することができます。

- 項目番号

項目の表示順を設定します。

項目の並び替えをする場合は、ドラッグして入れ替えることができます。

- 表示値

画面上に表示する値を設定します。

- 送信値

画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。

複数項目が選択できる場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義済みのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。

クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

パラメータ設定

データソース定義で定義済みのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。

クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目

データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。

同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」(※)を指定します。

任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「"」で囲んで指定します。

※画面アイテム「複数行文字列」、「リッチテキストボックス」は対象外です。

- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。

- [演算子](#)
- [文字列関数](#)
- [条件式関数](#)
- [数値系関数](#)
- [日付関数](#)
- [ユーザ情報関数](#)
- [ワークフロー関数\(申請情報\)](#)

- [ワークフロー関数\(案件情報\)](#)

取得値設定

選択したクエリで取得するデータを画面アイテムでどのように扱うかを設定します。

1. 表示値

画面上に表示する値に設定します。

2. 送信値

画面アイテムで選択した値として、データベースに登録する値を設定します。

複数項目を選択した場合、カンマ区切りでデータベースに保存します。そのため、項目値にカンマ「,」は使用できません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。

日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携 (*)
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

行数

画面に表示する選択肢の個数を指定します。

選択肢の個数が行数に設定した値より多い場合は、スクロールバーを利用して選択します。

参照時セパレータ

表示タイプ「参照」で、選択済みの複数の値を表示する際の区切り文字を設定します。

参照時セパレータの値に関係なく、データベース上では、複数の値が選択済みの場合には「,」を区切り文字として使用します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認

ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照

ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力できませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

表示タイプ：参照

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナー」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナー」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナー」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

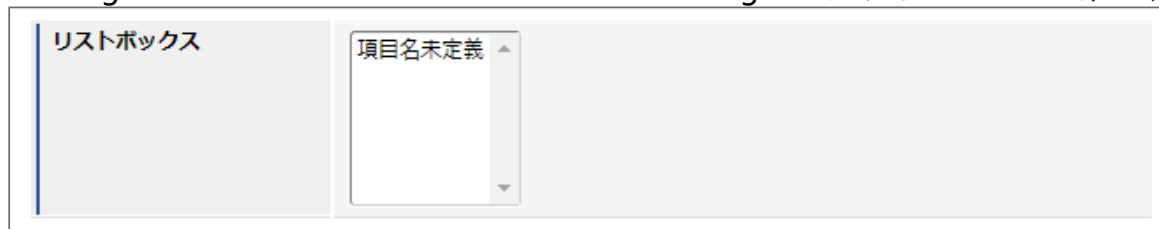
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナー」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

ファイルアップロード

画面アイテム「ファイルアップロード」は、画面の入力時のファイルを添付するためのアイテムです。

なお、IM-Workflow の添付ファイルとは異なる機能となりますので、注意してください。



注意

- FormaアプリのWF申請書再利用による申請では、アップロードされたファイルは引き継がれませんので注意してください。
- アップロード可能なファイルサイズは、intra-mart Accel Platform の機能に依存します。制限サイズを超えるファイルをアップロードするとエラーが発生しますので注意してください。
制限サイズの設定方法については、「[設定ファイルリファレンス](#)」-「[リクエストクエリの長さ制限](#)」を参照してください。
- ファイルアップロードの「備考」は500文字まで入力できます。
- ファイルアップロードアイテムのテーブルのカラムサイズの変更については、以下のリンク先を参照してください。
 - 「[IM-FormaDesigner 仕様書](#)」-「[カラムサイズの拡張](#)」
- データベースとして PostgreSQL を利用し、ファイルアップロードアイテムの保存先をデータベースとしている場合、添付ファイルサイズが非常に大きいとファイルのダウンロードが正常に行われない場合があります。
詳細は、「[制限事項](#)」-「[データベースとして PostgreSQL を利用し、ファイルアップロードアイテムの保存先をデータベースとしている場合、添付ファイルサイズが非常に大きいとファイルのダウンロードが正常に行われない場合があります。](#)」を参照してください。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、アイテムの上に表示します。

添付ファイルの個数

同一フォーム内で添付可能なファイルの個数の上限値、下限値を設定します。

1. 最小

添付ファイルの最小添付数を0以上の値で設定します。

2. 最大

添付ファイルの最大添付数を0以上の値で設定します。

詳細設定

アイテム識別ID

アップロードしたファイルを画面アイテムと関連付けるためのIDを設定します。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画像プレビュー表示

この設定は、ファイルアップロードを「プレビュー表示」モードとして動作させるための設定です。

設定が有効な場合には、ファイルアップロードアイテム内にプレビュー幅・高で設定したサイズの画像を表示します。

プレビュー画像をクリックすると元画像サイズで表示できます。

「画像プレビュー表示」を有効にした場合、アップロード可能なファイルが画像ファイル（拡張子：jpg,jpeg,png,gif）に限定されます。

プレビュー幅

アップロードした画像ファイルのプレビュー表示時の表示サイズの幅をピクセル単位で指定します。

プレビュー高

アップロードした画像ファイルのプレビュー表示時の表示サイズの高さをピクセル単位で指定します。

1ファイルあたりのサイズ（キロバイト単位）

1ファイルあたりのファイルサイズの上限をキロバイト単位で指定します。



コラム

- 1ファイルあたりのサイズ（キロバイト単位）には0以上の数値を必ず入力してください。
- 0を指定した場合は実行画面ではファイルサイズによる制限を行いません。

許可する拡張子

アップロードを許可するファイル拡張子をカンマ区切りで指定します。



コラム

- 「画像プレビュー表示」が有効な場合は、jpeg,jpg,gif,png のみ設定します。
- 未指定の場合は「画像プレビュー表示」が有効な場合は、実行画面では jpeg,jpg,gif,png を許可します。「画像プレビュー表示」が無効な場合は、実行画面では、すべての拡張子を許可します。

別ウィンドウ表示

別ウィンドウ表示の有効無効を設定します。

ファイル名を押下した場合に、別ウィンドウでファイルを開きます。



コラム

- 別ウィンドウ表示を有効にした場合、実行画面でファイルをダウンロードするにはファイル名の右側にあるアイコンを押します。
- 実行画面では、ブラウザによって別ウインドウ表示されるファイルの種類が異なります。
- スマートフォン版では別ウィンドウでは表示されません。

ファイル一覧の並び順

アップロードされたファイルの並び順に関して、ソートに使用する項目（ファイル名/備考/更新日）と並び順（昇順/降順）を指定します。

画面の種類（行項目）

- 1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
- 2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
- 3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
- 4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

- 1. 表示・入力可
入力できる画面アイテムとして表示します。
- 2. 表示・参照
入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
- 3. 非表示
入力・表示ともできません。
設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

添付ファイル			
ファイル名	備考	更新日	+

表示タイプ：参照

添付ファイル		
ファイル名	備考	更新日

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

- 幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
- 高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
- X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
- Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

リッチテキストボックス

画面アイテム「リッチテキストボックス」は、色やフォントなどの文字装飾を伴う文字を入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、アイテムの上に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。

日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値(送信値)を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携 (*)
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

リッチテキストボックス設定

リッチテキストボックスのエディタなどの詳細を設定します。

ツールバースタイル

ツールバー（編集用のコマンドアイコンを表示する部分）のスタイルを設定します。

「シンプル」に設定した場合、利用できるコマンドアイコンが少なくなります。

メニューバー

メニューバーを表示するか設定します。

チェックボックスがオンの場合、編集用のコマンドアイコンがメニューバーにまとまって表示されます。

画像挿入機能の利用

ローカルの画像を利用する機能を設定します。

設定ファイル（ui-tag-config_imui-richtextbox.xml）にて、扱える画像のオプションを設定できます。

- [imuiDataUrl（設定を変更する）](#)

エディタ幅

文字を編集する領域の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

エディタ高さ

文字を編集する領域の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

参照表示高さ固定

表示タイプの表示が「参照」の場合に、リッチテキストボックスの領域の高さを調整するかを設定します。

チェックボックスがオンの場合、表示する内容に関係なく、常に固定の高さで表示します。

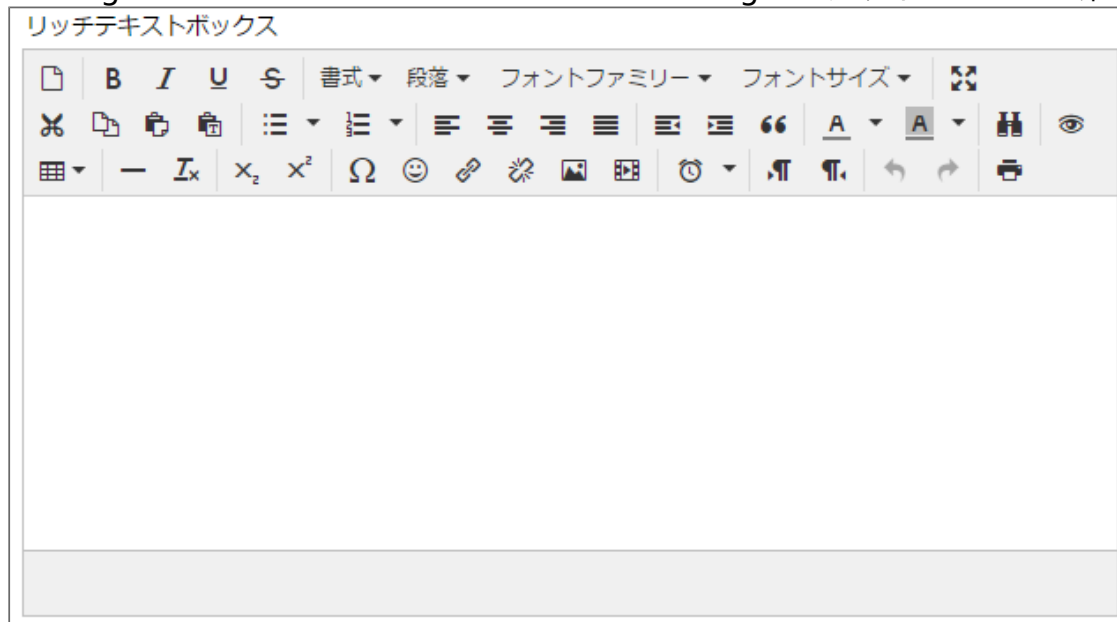
画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
入力できませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
入力・表示ともできません。
設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可



表示タイプ：参照



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

ボタンアイテム

ボタン(登録)

画面アイテム「ボタン(登録)」は、入力したデータの登録処理(ワークフローの申請・再申請・承認等)を実行するためのアイテムです。

基本設定

ラベル（申請・再申請・承認・参照）

ボタンのラベルとして使用します。

ラベルに設定した名称を、ボタン上に表示します。

「ボタン（登録）」では、表示タイプに合わせて表示する名称を設定できます。

- 申請：申請画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「申請」です。
- 再申請：再申請画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「再申請」です。
- 承認：承認画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「承認」です。
- 参照：参照画面時に表示する名称を設定します。デフォルト値は「更新」です。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。

レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上

ボタン(次へ)

画面アイテム「ボタン(次へ)」は、次の画面に遷移するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。

ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。

レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

利用方法

利用方法を設定します。

- 画面遷移(次へ)：次の画面に遷移します。タブフォームに設定している場合には、右のタブに遷移します。
- ポップアップ表示：ポップアップで表示します。

子画面サイズ（幅）

ポップアップ表示する子画面の横の長さ（幅）をピクセル単位で指定します。

子画面サイズ（高）

ポップアップ表示する子画面の縦の長さ（高さ）をピクセル単位で指定します。

Forma画面設定

子画面表示時

子画面表示時の処理を指定します。

- 子画面に値を反映：親画面から子画面に値を反映します。
- 何もしない：値の反映はしません。

フォーム遷移名

子画面に表示するフォーム遷移を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(戻る)

画面アイテム「ボタン(戻る)」は、前の画面に遷移するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。

ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

「戻る」ボタンの動作について

「戻る」ボタンは、ボタンが配置されたフォームの遷移前の画面、遷移先の画面によって動作が異なりますので、注意して配置してください。
「ヘッダー」の「戻る」リンクが表示された場合も同じ動作となります。

- フォーム遷移設定で、表示するフォーム件数が1件(単一のフォーム画面を表示する)の場合

フォームの遷移前の画面	「戻る」ボタン／「戻る」リンクをクリックした後の 遷移先の画面
一覧表示画面	一覧表示画面
メニュー(サイトマップなど)	画面遷移しません(クリックしても何も起こりません)

- フォーム遷移設定で、表示するフォーム件数が2件以上(複数のフォーム画面を表示する)の場合

フォームの遷移前の画面	「戻る」ボタン／「戻る」リンクをクリックした後の 遷移先の画面
一覧表示画面→前に表示するフォーム	前に表示するフォーム画面
メニュー(サイトマップなど)→前に表示するフォーム	前に表示するフォーム画面

最初に表示するフォームの場合の動作は、単一のフォーム画面を表示する場合と同様となります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

利用方法

利用方法を設定します。

- 画面遷移(戻る)：画面遷移で戻ります。タブフォームに設定している場合には、左のタブに遷移します。
- 子画面利用(閉じる)：子画面を閉じます。

クリック時の処理

クリック時の処理を指定します。

- 親画面に値を反映し画面を閉じる：画面を閉じる際に親画面に値を反映します。
- 画面を閉じる：画面を閉じます。

確認ダイアログ

チェックをオンにした場合、子画面を閉じる際にダイアログを表示します。

確認メッセージ

確認ダイアログに表示するメッセージを登録します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(一覧へ戻る)

画面アイテム「ボタン(一覧へ戻る)」は、一覧画面に遷移するためのアイテムです。

遷移先の一覧画面は、アプリケーション種別や呼び出し元の画面によって異なります。

詳細は下記のページを参照してください。

- 「[IM-FormaDesigner 仕様書](#)」
- 「[IM-FormaDesignerにおける画面遷移部品の仕様（アプリケーション種別「IM-Workflow」の場合）](#)」

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

- 高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
- X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
- Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(一時保存)

画面アイテム「ボタン(一時保存)」は、一時保存を実行するためのアイテムです。
 入力したデータを申請処理をせずに、保存することができます。
 一時保存を行ったデータは、ワークフローの「一時保存一覧」、または「未処理一覧」から呼び出して、編集・登録することができます。
 詳細は「[IM-FormaDesigner 仕様書](#)」 - 「[IM-FormaDesigner における一時保存の仕様](#)」を参照してください。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
 ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
 レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

- 「する」をオン
登録または申請時と同様の入力チェックが行われます。
- 「しない」をオン
以下の最小限の入力チェックのみ行われます。
 - 最大文字数
 - 数値のみ
 - 数値桁数
 - 小数部桁数
 - 日付形式



コラム

以下の入力チェックは行われません。

- 必須チェック
- 必須選択チェック
- 最小文字数
- 英数字のみ
- 負数
- 添付ファイルの個数 最少
- 添付ファイルの個数 最大
- 正規表現

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
html上に画面アイテムを存在させません。



コラム

再申請や承認時に、一時保存を実行できるようにするには、表示タイプ：再申請・承認に対して、入力タイプ：入力に設定してください。

表示タイプ：表示

一時保存

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ボタン(コピー新規)

画面アイテム「ボタン(コピー新規)」は、申請済みの案件を複製して申請を行うためのアイテムです。一部のアイテムを除き、申請済み案件に入力した内容をコピーした状態で申請画面を表示できます。詳細は「[IM-FormaDesigner 仕様書](#)」 - 「[WF申請書再利用の仕様](#)」を参照してください。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。
ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。
レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 申請

ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請

ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認

ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照

ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示

html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示

html上に画面アイテムを存在させません。



コラム

「ボタン(コピー新規)」は、表示タイプ「申請」で「表示」に設定しても、申請画面には表示されません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナー」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナー」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナー」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナー」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

共通マスタアイテム

ユーザ選択

画面アイテム「ユーザ選択」は、IM共通マスタのユーザを検索して入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

フィールド初期値 / フィールド初期選択値 / [始]フィールド初期値 / [終]フィールド初期値

入力欄に初期表示する値を設定します。

日付を扱う画面アイテムの場合、初期値として「現在の日付」を表示するかを設定します。

セレクトボックスなどの選択系アイテムの場合、初期表示で選択する値（送信値）を設定します。

「ユーザ選択」の場合は、初期値に「ログインユーザのユーザ名」を表示するかを設定します。

初期値が設定されるのは申請画面のみとなります。



コラム

承認画面におけるフィールド初期値の扱いについて

承認画面で表示したアイテムの初期値には、該当のアイテムを承認画面のフォームにのみ配置した場合であっても「フィールド初期値」の内容は表示されません。

承認画面での表示時点で何も値が設定されていない状態に対し、「申請画面からの未入力」または「承認画面で初めて表示された項目により未入力」なのかが判断できないためです。

承認画面で初期値を設定したい場合は、次の機能の利用を検討してください。

- 前処理プログラム
- 外部連携 (*)
 - 前処理
 - 初期表示イベント



コラム

* 外部連携について

「外部連携」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

なお、外部連携のレスポンスに設定できるアイテムについては「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[データマッパーで利用できるアイテム一覧](#)」を参照してください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

ユーザ検索画面 / 組織検索画面

ユーザ、組織の検索方法として利用できる画面(タブ)を選択します。

「表示タブ」に表示した画面(タブ)をアプリの実行時に利用できます。

表示するタブは上から順になりますので、右の矢印で並び順を変更することもできます。

画面の種類 (行項目)

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可

入力できる画面アイテムとして表示します。

2. 表示・参照

入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。

3. 非表示

入力・表示ともできません。

設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

表示タイプ：参照

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

組織選択

画面アイテム「組織選択」は、IM共通マスタの組織を検索して入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

組織名の表示

組織名を表示するときに、階層的に表示するかどうかを設定します。
 チェックがオンの場合、組織名を上位組織から階層的に表示します。
 (例) サンプル会社 / サンプル部門 0 1 / サンプル課 1 1

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。
 アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

ユーザ検索画面 / 組織検索画面

ユーザ、組織の検索方法として利用できる画面(タブ)を選択します。
 「表示タブ」に表示した画面(タブ)をアプリの実行時に利用できます。
 表示するタブは上から順になりますので、右の矢印で並び順を変更することもできます。

画面の種類 (行項目)

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ (列項目)

1. 表示・入力可
入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
入力できませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
入力・表示ともできません。
設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

組織名




表示タイプ：参照

組織名

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナー」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナー」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル

単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

組織・役職選択

画面アイテム「組織・役職選択」は、IM共通マスタの役職を検索して入力するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。

ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
入力できませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
入力・表示ともできません。
設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

役職名




表示タイプ：参照

役職名

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインモード

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。

役職名




ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

所属組織選択

画面アイテム「所属組織選択」は、IM共通マスタの所属組織を検索して入力するためのアイテムです。



コラム

「所属組織選択」には、一時保存や再申請時には前回処理時の入力値は表示されません。
一時保存や再申請の画面の表示した時点のログインユーザの情報を反映する仕様により、前回処理（一時保存・申請）時からログインユーザの情報に変更があった場合には無効な情報となっている可能性もあるため、一時保存や再申請では常に初期値が表示されます。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

先頭に空白行を挿入

チェックをオンにした場合、入力欄の最初の項目に空白を表示します。

入力チェック

画面アイテムで利用する入力チェックを設定します。

必須入力チェック / [始]必須入力チェック / [終]必須入力チェック

チェックをオンにすると、入力必須項目としてチェックします。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
入力はできませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
入力・表示ともできません。
設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

所属組織選択

表示タイプ：参照

所属組織選択

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。



ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

汎用アイテム

隠しパラメータ

画面アイテム「隠しパラメータ」は、フォーム上に表示させずに値を保持するためのアイテムです。

基本設定

データ型 / 式評価結果のデータ型

画面アイテムに保持する値、または関数の評価結果の値、隠しパラメータで保持する値のデータ型を指定します。
利用している関数等に応じて、正しいデータ型が選択されていない場合、値が正しく保持されません。

文字列

- 対象の値を英字、数字、漢字・ひらがななど、文字データとして扱います。

数値

- 対象の値を小数や整数、負数など、数値データとして扱います。

日付

- 対象の値を日付データとして扱います。
- 時刻および、タイムゾーンの情報は保持していません。

タイムスタンプ

- 対象の値を時刻、タイムゾーン情報を保持した日付情報データとして扱います。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。

そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。

チェックがオフの場合、データベースに登録しません。

ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
html上に画面アイテムを存在させません。

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

スクリプト

画面アイテム「スクリプト」は、フォームの表示時に実行するスクリプトを記述するためのアイテムです。

スクリプトを書くためにはJavascriptの知識が必要です。jQueryを学ぶことにより、より高度な操作が簡単に行えます。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
html上に画面アイテムを存在させません。

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

スクリプト

コード実行タイミングは、DOMツリーが構築された直後です。

参考：`$(document).ready(記述コード)`

デフォルトでjQueryライブラリが読み込まれているので、自由に利用することができます。

コードの制限などはありません。

スクリプトにより各画面アイテムの操作方法が分からない場合は、フォーム実行時に生成されるHTMLをブラウザの機能で参照し判断してください。

また、クライアントサイドスクリプトAPIを利用して、画面アイテムの値操作を行うことができます。



コラム

フォーム上に配置したアイテムのスクリプトの実行順は、HTML上での配置順に基づいて決定します。この配置順については、以下のいずれかの方法で設定されます。

- ツールキットからフォーム編集画面（フォーム・デザイナー）に配置した順序
- フォーム編集画面（フォーム・デザイナー）でのアイテムのコンテキストメニュー（右クリックで表示するメニュー）の前面や背面への移動
(前面への移動では実行順が後、背面への移動では実行順が前になります。)

実際のアイテムの配置順については、実行時のHTMLで確認してください。



注意

スクリプト操作による動作は製品では保証できません。十分な検証を行ってください。



注意

「スマートフォン版」表示を利用する場合、以下の関数を利用して、「PC版」「スマートフォン版」でスクリプトの実行をコントロールしてください。

- `forma.funcs.getDisplayClientType()`
実行しているクライアントを返却します。
 - クライアントがPCの場合
「pc」と返却します。
 - クライアントがスマートフォンの場合
「sp」と返却します。

スクリプトエディタで開く

クライアントサイド JavaScriptに関する開発に特化したエディタを使用して編集できます。

「確定」を押下することで、アイテムプロパティへ値を反映します。

スクリプトエディタでは配置した画面アイテムのクライアントサイドスクリプトAPIを補完できます。

補完できるAPIについては、「IM-BIS 仕様書」 - 「クライアントサイドスクリプトAPI」を参照してください。



コラム

補完はスクリプトエディタ表示時に配置されていた画面アイテムが対象です。スクリプトエディタ表示後に画面アイテムを配置した場合は、スクリプトエディタを閉じ、再度表示することで補完対象にできます。

ボタン(イベント)

画面アイテム「ボタン(イベント)」は、ボタンでスクリプトを実行するためのアイテムです。

PDF印刷等の処理を行わせることができます。

基本設定

ラベル

ボタンのラベルとして使用します。

ラベルに設定した名称をボタン上に表示します。

ボタンサイズレベル

ボタンの表示サイズをレベル単位で指定します。

レベルの数字が小さいほど、表示するサイズが大きくなります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

ヘッダーに表示

画面アイテムの表示場所を指定します。

- 表示しない：ヘッダーに表示させません。
- 左側：ヘッダーの左側に表示させます。
- 右側：ヘッダーの右側に表示させます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

- X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
- Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

スクリプト

ボタンをクリックした時に実行する、javascriptコードを記述します。

デフォルトでjQueryライブラリが読み込まれているので、自由に利用することができます。

コードの制限などはありません。

スクリプトにより各画面アイテムの操作方法が分からない場合は、フォーム実行時に生成されるHTMLをブラウザの機能で参照し判断してください。

また、クライアントサイドスクリプトAPIを利用して、画面アイテムの値操作を行うことができます。

詳細：「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[クライアントサイドスクリプトAPI](#)」



注意

スクリプト操作による動作は製品では保証できません。十分な検証を行ってください。



注意

「スマートフォン版」表示を利用する場合、以下の関数を利用して、「PC版」「スマートフォン版」でスクリプトの実行をコントロールしてください。

- `forma.funcs.getDisplayClientType()`
実行しているクライアントを返却します。
 - クライアントがPCの場合
「pc」と返却します。
 - クライアントがスマートフォンの場合
「sp」と返却します。

スクリプトエディタで開く

クライアントサイド JavaScriptに関する開発に特化したエディタを使用して編集できます。

「確定」を押下することで、アイテムプロパティへ値を反映します。

スクリプトエディタでは配置した画面アイテムのクライアントサイドスクリプトAPIを補完できます。

補完できるAPIについては、「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[クライアントサイドスクリプトAPI](#)」を参照してください。



コラム

補完はスクリプトエディタ表示時に配置されていた画面アイテムが対象です。

スクリプトエディタ表示後に画面アイテムを配置した場合は、スクリプトエディタを閉じ、再度表示することで補完対象にできます。

採番

画面アイテム「採番」は、登録済みの採番ルール定義を利用して自動的に番号を取得して表示するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

入力項目の名称などの補助項目として使用します。
ラベルに設定した名称を、入力欄の左に表示します。

採番ルール定義名

- 登録済みの採番ルール定義からどの採番ルール定義を利用するかを設定します。
- 採番ルール定義をフォームで利用する場合には、あらかじめ採番ルール定義の登録を行っておく必要があります。
- 初期設定では、「システムによる自動採番」が設定されています。
「システムによる自動採番」で採番ルール定義を設定した場合は、JS API Identifier.get()を利用してシステム上一意な値を返します。

採番方法

- 採番をどのタイミングで行うかを設定します。
 - 画面アクセス毎
画面を表示したタイミングで採番します。
ただし、一時保存した状態で再度表示した場合には採番しません。
 - 登録処理毎
画面で登録(申請)処理を行われたタイミングで採番します。
正常に処理が完了したタイミングで番号が確定するため、登録(申請)前には何も表示されません。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。
同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フィールド識別名 / [始]フィールド識別名 / [終]フィールド識別名

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの論理名として利用します。
そのほかに、一覧表示画面での画面アイテムに対応する項目名(論理名)として利用します。

フィールド値DB登録

画面アイテムに入力した値をデータベースへ登録するかを設定します。
チェックがオフの場合、データベースに登録しません。
ワークフロー関数などを利用している場合には、正しく値が表示されない場合がありますので、チェックをオフにしてください。

ラベル幅

ラベルの値を表示する幅をピクセル単位で指定します。

フィールド幅

入力欄の表示の幅をピクセル単位で指定します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

アプリケーション種別が「IM-Workflow」、またはIM-BISで作成したフォームの場合には、追記設定・案件プロパティの設定時に表示する名称に利用されます。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示・入力可
入力できる画面アイテムとして表示します。
2. 表示・参照
入力できませんが、設定値や入力済みの値を表示します。
3. 非表示
入力・表示ともできません。
設定値や入力済みの値があっても、表示だけでなく、他の画面アイテムからの参照もできません。

表示タイプ：入力可

採番番号	5i4dlldd0dixmot4
------	---

表示タイプ：参照

採番番号	5i4dlldd0dixmot4
------	---

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

iAP UIデザインガイドラインに沿ったデザインで、画面アイテムを表示するかを設定します。
 チェックがオンの場合、画面アイテムをiAP UIデザインモードで表示します。

採番番号	8f07fnpv3i43wf7
---	--

ラベルスタイル / [前]ラベルスタイル / [後]ラベルスタイル

ラベルの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

折り返し

チェックがオンの場合、ラベル名が表示範囲内に収まりきらないときに折り返します。

フィールドスタイル

フィールドの書式を指定します。

フォント

文字のフォントの種類を指定します。

フォントサイズ

文字のサイズをピクセル単位で指定します。

文字色

文字色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

太字

文字を太字で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を太字で表示します。

斜体

文字を斜体で表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字を斜体で表示します。

下線

文字に下線を表示するかを設定します。

チェックがオンの場合、文字に下線を表示します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線

枠線の設定を行います。

- 枠あり：枠線が表示されます。
- 枠なし：枠線は表示されません。
- 下線のみ：下線が表示されます。

枠線色

枠線色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

枠線の影

枠線に影をつけるかを設定します。

チェックがオンの場合、枠線に影をつけて表示します。

インラインフレーム

画面アイテム「インラインフレーム」は、フォーム上に枠を作り別のページを表示するためのアイテムです。



注意

インラインフレームは、IM-BIS for Accel Platform でのみ利用できます。

- ご利用時の注意点
 - 画面アイテム「インラインフレーム」を利用することで、様々なWebサイトを画面上に表示できますが、呼び出し先のWebサイトの設定を正しく設定しても、該当のサイトを表示できない場合がありますのでご了承ください。
 - インラインフレームの倍率が25%の場合、「フォーム・デザイナ」画面、実行画面で利用されているダイアログ（フォーム・デザイナ画面のツールキットやフィールド一覧など）がインラインフレームの後ろに隠れて表示されてしまう場合があります。
この現象は、URLに設定したWEBサイトによって発生します。
 - 「Internet Explorer 8」では、倍率設定が正しく動作しませんので、注意してください。

基本設定

URL

インラインフレームに表示するサイトのURLを指定します。

パラメータ設定

送信方法

データの送信方法を「GET」「POST」のいずれかから選択します。

パラメータ設定

URLに設定した値（アドレス）に追加したいパラメータのキーと値の組み合わせを設定します。

「+」「-」で追加と削除ができます。

左の行番号をドラッグすることで順番の入れ替えができます。

- パラメータキー

パラメータキーを設定します。

- パラメータ値

パラメータ値に設定されている状態を確認します。

値の取得元がプロパティ設定値の場合、パラメータ値に設定した文字列がそのまま表示されます。

データソース設定値の場合は、「データソース設定値」とだけ表示されます。

パラメータキー

編集対象のパラメータ値に対応するパラメータキーを選択します。

値の取得元

パラメータ値に設定する値の取得方法を設定します。

- プロパティ設定値

固定文字列、または画面アイテムから取得した値をパラメータ値として設定します。

- データソース設定値

データソース定義で定義されているクエリを使用して、データベースから動的に取得した値をパラメータ値として設定します。

値の取得元が「プロパティ設定値」の場合の設定項目

パラメータ値

パラメータに設定する値を登録します。

同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」を指定します。

任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「"」で囲んで指定します。

値の取得元が「データソース設定値」の場合の設定項目

データソース名

データソース定義で定義済みのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。

クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

データソース設定

データソース定義で定義済みのクエリ一覧から、使用するクエリを選択します。

クエリを選択すると、パラメータ等の設定項目は初期化されます。

- 条件項目

データソース定義で設定済みの条件項目(入力値)に設定する値を入力します。

同一フォーム上の画面アイテムから値を取得して設定する場合には、その画面アイテムの「フィールド識別ID」を指定します。

任意の固定文字列を設定する場合には、その文字列の前後をダブルクォーテーション「"」で囲んで指定します。

- 利用できる演算子、関数は以下の通りです。

- [演算子](#)

- [文字列関数](#)
- [条件式関数](#)
- [数値系関数](#)
- [日付関数](#)
- [ユーザ情報関数](#)
- [ワークフロー関数\(申請情報\)](#)
- [ワークフロー関数\(案件情報\)](#)

パラメータ設定値

パラメータに設定する値を登録します。

詳細設定

フィールド識別ID / [始]フィールド識別ID / [終]フィールド識別ID

アプリケーションテーブル上での、画面アイテムの物理名（列名）として利用します。

同一のアプリケーション内では、すべての画面アイテムのフィールド識別IDが一意になるように設定してください。

フレーム制御

インラインフレームの動作種別を設定します。

以下の項目から設定できます。

- 「利用しない」の場合
インラインフレームを通常表示します。
画面から直接インラインフレーム内の項目を操作できます。
最大表示はできません。
表示例)



- 「クリック／コントロールバー」の場合
画面から直接インラインフレーム内の項目を操作できませんが、一度インラインフレーム内をクリックし、最大表示した後に操作できます。
表示例)



■ 「コントロールバー」の場合

画面から直接インラインフレーム内の項目を操作できます。

また、上部に表示されるバーで倍率と最大表示と縮小表示を行えます。
(表示例)



通常時の倍率

最大表示ではないときの倍率を指定します。

25%～275%の間で25%ごとに指定できます。

最大化時の倍率

コントロールバーの「クリック／コントロールバー」と「コントロールバー」を選択した場合に、最大表示のときの倍率を指定します。

25%～275%の間で25%ごとに指定できます。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請

ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

2. 再申請

ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。

3. 承認

ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。

4. 参照

ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示

html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示

html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

コントロールバースタイル

グラデーションパターン

コントロールバーにグラデーションを設定します。

以下の項目から選択できます。

- 利用しない
グラデーションを利用せずに、コントロールバーを単色で表示します。

コントロールバーの色を1色指定します。

- 縦方向
コントロールバーの色1からコントロールバーの色2へと、上から下へ縦方向にグラデーションで表示します。
コントロールバーの色を2色指定します。
- 横方向
コントロールバーの色1からコントロールバーの色2へと、左から右へ横方向にグラデーションで表示します。
コントロールバーの色を2色指定します。

コントロールバーの色1

コントロールバーの色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

コントロールバーの色2

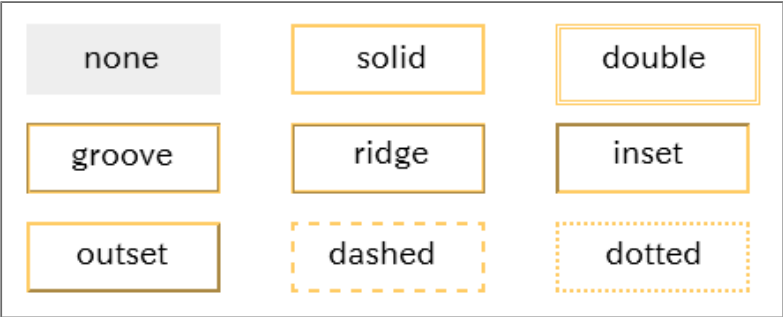
コントロールバーの色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

フレームスタイル

枠のスタイル

表示する画面アイテムの枠の形式を指定します。

- none : 枠は表示されません。表のセルなどの枠が重なり合う場合は他の値が優先されます。
- solid : 枠は1本の線で表示されます。
- double : 枠は二重線で表示されます。
- groove : 枠は立体的に窪んだ線で表示されます。
- ridge : 枠は立体的に隆起した線で表示されます。
- inset : 枠の内側が立体的に窪んだ線で表示されます。
- outset : 枠の内側が立体的に隆起した線で表示されます。
- dashed : 枠は破線で表示されます。
- dotted : 枠は点線で表示されます。



- 枠のスタイルによる設定項目の違いについて

枠のスタイルを特定の種類にした場合には、一部の設定項目が下記の通り変わります。
設定した枠のスタイルの種類に合わせて、必要な項目を設定してください。

- 正方形/長方形の場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	必須
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

- インラインフレーム、BI表示アイテムの場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	任意
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

枠の太さ

表示する枠の太さをピクセル単位で指定します。

枠の色

枠の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

BI表示アイテム

画面アイテム「BI表示アイテム」は、Jaspersoftのレポートをフォーム上に表示するためのアイテムです。



注意
「BI表示アイテム」は、Jaspersoft 機能強化モジュールが導入されている環境でのみご利用いただけます。

基本設定

カテゴリ

レポートタイプを指定します。
Jaspersoftのレポートタイプに合わせて、レポート、チャート、ダッシュボードのいずれかを設定してください。

レポートパス

右の虫眼鏡アイコンからレポートを検索し、表示するレポートのパスを設定します。

詳細設定

アイテム名

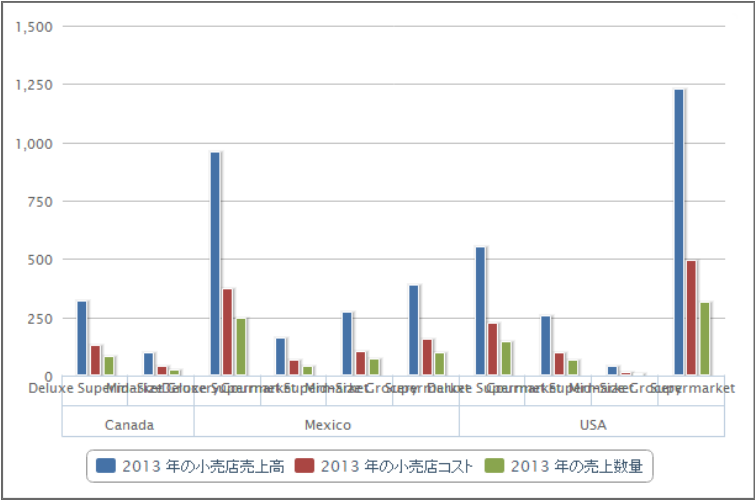
同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

- 1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
- 2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
- 3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
- 4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

1. 表示
- html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
- html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

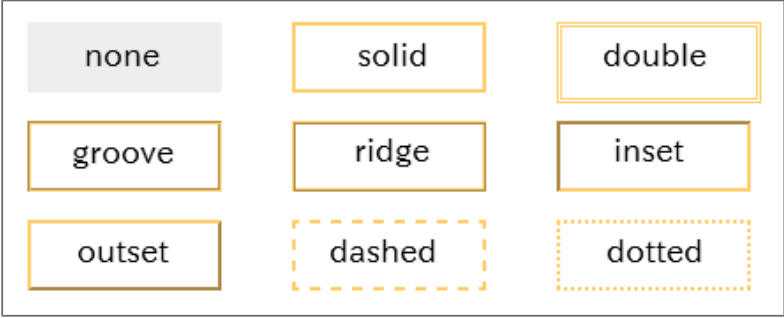
Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

枠のスタイル

- 表示するアイテムの枠の形式を指定します。
- none：枠は表示されません。表のセルなどの枠が重なり合う場合は他の値が優先されます。
 - solid：枠は1本の線で表示されます。
 - double：枠は二重線で表示されます。
 - groove：枠は立体的に窪んだ線で表示されます。
 - ridge：枠は立体的に隆起した線で表示されます。
 - inset：枠の内側が立体的に窪んだ線で表示されます。
 - outset：枠の内側が立体的に隆起した線で表示されます。
 - dashed：枠は破線で表示されます。
 - dotted：枠は点線で表示されます。



枠のスタイルによる設定項目の違いについて

枠のスタイルを特定の種類にした場合には、一部の設定項目が下記の通り変わります。
設定した枠のスタイルの種類に合わせて、必要な項目を設定してください。

■ 正方形/長方形の場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	必須
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

■ インラインフレーム、BI表示アイテムの場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	任意
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

枠の太さ

表示する枠の太さをピクセル単位で指定します。

枠の色

枠の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

表示アイテム

見出し

画面アイテム「見出し」は、フォーム上に見出しを表示するためのアイテムです。

基本設定

ラベル

見出しのラベルとして使用します。

見出しレベル

見出しの大きさを1～5の間で選択します。
数が小さいほど、表示が小さくなります。
「1」に設定した場合が、大きさは最大となり、「5」に設定した場合が、大きさは最小となります。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
- ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
- ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
- ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
- ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
- html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
- html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示

見出しレベル1	見出し
見出しレベル2	見出し
見出しレベル3	見出し
見出しレベル4	見出し
見出しレベル5	見出し

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル

単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

横線

画面アイテム「横線」は、フォーム上に横線を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上

表示スタイル

太さ

表示する線の太さをピクセル単位で指定します。

色

線の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

縦線

画面アイテム「縦線」は、フォーム上に縦線を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
- ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
- ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
- ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
- ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
- html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
- html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

太さ

表示する線の太さをピクセル単位で指定します。

色

線の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

正方形/長方形

画面アイテム「正方形/長方形」は、フォーム上に正方形や長方形を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

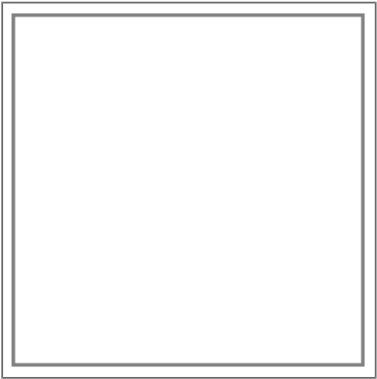
画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

表示スタイル

枠のスタイル

- 表示するアイテムの枠の形式を指定します。
- none：枠は表示されません。表のセルなどの枠が重なり合う場合は他の値が優先されます。
 - solid：枠は1本の線で表示されます。
 - double：枠は二重線で表示されます。
 - groove：枠は立体的に窪んだ線で表示されます。
 - ridge：枠は立体的に隆起した線で表示されます。
 - inset：枠の内側が立体的に窪んだ線で表示されます。
 - outset：枠の内側が立体的に隆起した線で表示されます。
 - dashed：枠は破線で表示されます。
 - dotted：枠は点線で表示されます。



枠のスタイルによる設定項目の違いについて

枠のスタイルを特定の種類にした場合には、一部の設定項目が下記の通り変わります。
設定した枠のスタイルの種類に合わせて、必要な項目を設定してください。

- 正方形/長方形の場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	必須
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

- インラインフレーム、BI表示アイテムの場合

枠のスタイル	枠の太さ	枠の色	背景色
none	設定不可	設定不可	任意
double	設定不可	必須	任意
上記以外	必須	必須	任意

枠の太さ

表示する枠の太さをピクセル単位で指定します。

枠の色

枠の色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

背景色

背景色を色コード(#で始まる16進数)、またはカラーピッカーから選択して指定します。

イメージ

画面アイテム「イメージ」は、フォーム上に任意の画像を表示するためのアイテムです。

基本設定

イメージ選択

配置した場所に表示する画像ファイルを指定します。
指定できる画像ファイルは、「フォーム・デザイナー」画面上の「画像アップロード」で事前にアップロード済みの画像ファイルに限られます。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ラベル

画面アイテム「ラベル」は、フォーム上にラベル(太字や文字色などの装飾を行った文字)を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

- 1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
- 2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
- 3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
- 4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

- 1. 表示
html上に画面アイテムを存在させます。
- 2. 非表示
html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示

ラベル内容を入力してください

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

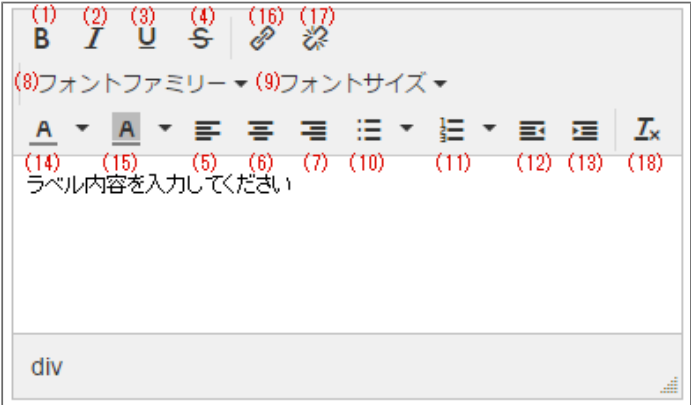
- 幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
- 高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
- X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
- Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

ラベル編集

ラベル内容

ラベルに表示する文字、文字の書式を設定します。

ラベルの内容の編集時に利用できるツールバーと各部の説明



1. 太字

太字にしたい文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、太字で表示します。

2. 斜体(イタリック体)

斜体にしたい文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、斜体で表示します。

3. 下線

下線を付加したい文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、下線を表示します。

4. 取り消し線

取り消し線を付加したい文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、取り消し線を表示します。

5. 左揃え

文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を左揃えで表示します。

6. 中央揃え(センタリング)

文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を中央揃えで表示します。

7. 右揃え

文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を右揃えで表示します。

8. 文字の種類

文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字のフォントの種類を変更します。
選択できるフォントは、操作しているパソコンにインストール済みの英字フォントに限られます。

9. 文字サイズ

文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字のサイズを変更します。

10. 番号なしリスト

文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を番号なしリストの形式に変更します。

11. 番号つきリスト

文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を番号つきリストの形式に変更します。

12. 字下げを減らす

文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字の字下げのレベルを下げます。

13. 字下げを増やす

文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字の字下げのレベルを上げます。

14. 文字の色

文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字の色を変更します。

15. 背景の色

文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、選択状態の文字を蛍光ペンでマーキングしたように表示します。

16. リンクの挿入や編集

文字を選択状態(反転している状態)でクリックし、URLを設定すると、ハイパーリンクとして表示します。

17. リンクを解除

文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、ハイパーリンクを解除します。

18. 書式の削除

文字を選択状態(反転している状態)でクリックすると、設定済みの書式設定を削除します。

ラベルのエディタの「文字の種類」の選択状態について

- ラベルの内容の設定で、「文字の種類」の変更後にプロパティ画面を一度閉じてから再表示した際の「文字の種類」の選択状態は、ご利用のブラウザによって選択されたフォント名が表示される場合と初期値(“フォント”)が表示される場合があります。

こちらは、ラベルの内容を編集するエディタとしている「TinyMCE」というオープンソースのツールの仕様によるものとなりますので、ご了承ください。

ワークフローアイテム

案件情報表示

画面アイテム「案件情報表示」は、フォーム上にワークフローの案件情報を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

表示項目

ワークフローに関する情報のうち、表示する項目を指定します。

表示する項目を「表示項目」、非表示とする項目は「非表示項目」に設定することで、必要な情報のみをフォーム上に表示できます。

「表示項目」右のアイコンで並び順を変えると、表示する項目の順番を変更することができます。

画面の種類（行項目）

- 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
- 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
- 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
- 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

- 表示
html上に画面アイテムを存在させます。
- 非表示
html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示

案件番号	0000000008
案件名	Formaサンプル
申請者	青柳辰巳
申請日	2012/09/25
申請基準日	2012/09/25

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

添付ファイル表示

画面アイテム「添付ファイル表示」は、フォーム上にワークフローで添付したファイルを表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

- 1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
- 2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
- 3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
- 4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

- 1. 表示
html上に画面アイテムを存在させます。
- 2. 非表示
html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示

添付ファイル			
ファイル名	サイズ	登録者	登録日時
 サンプルドキュメント.txt	1 KB	青柳辰巳	2012/09/25 18:47

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

フロー画像表示

画面アイテム「フロー画像表示」は、フォーム上にワークフローのフロー画像を表示するためのアイテムです。

詳細設定

フローの表示方法

フロー画像の表示方法を選択します。

フレーム表示
フロー画像をフレーム形式で表示します。
プロパティのアイテムサイズ内で表示できない場合には、スクロールバーを表示します。

画像表示

フロー画像を画像形式で表示します。
プロパティのアイテムサイズ内で表示できない場合には、範囲に入りきらない部分は切り捨てて表示します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

- 1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
- 2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
- 3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
- 4. 参照

ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

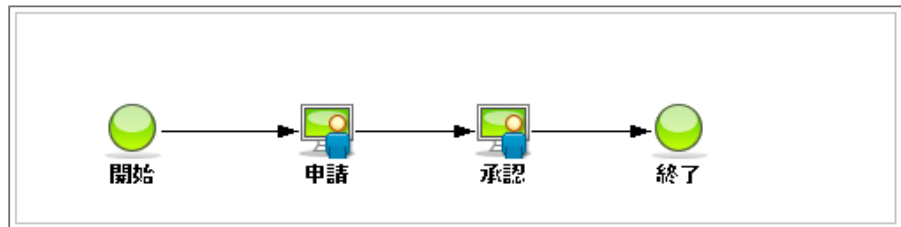
1. 表示

html上に画面アイテムを存在させます。

2. 非表示

html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示



アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y

画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

処理履歴表示

画面アイテム「処理履歴表示」は、フォーム上にワークフローの処理履歴を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

表示項目

ワークフローに関する情報のうち、表示する項目を指定します。

表示する項目を「表示項目」、非表示とする項目は「非表示項目」に設定することで、必要な情報のみをフォーム上に表示できます。

「表示項目」右のアイコンで並び順を変えると、表示する項目の順番を変更することができます。

画面の種類（行項目）

1. 申請

ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。

- 2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
- 3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
- 4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

- 1. 表示
html上に画面アイテムを存在させます。
- 2. 非表示
html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示

処理履歴						
処理日時	ノード名	処理	処理者	代理先	担当組織	コメント
2012/09/25 18:47	申請	申請	青柳辰巳		サンプル課11	よろしくお願いします。

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

- 幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
- 高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
- X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
- Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

確認履歴表示

画面アイテム「確認履歴表示」は、フォーム上にワークフローの確認履歴を表示するためのアイテムです。

詳細設定

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

表示項目

- ワークフローに関する情報のうち、表示する項目を指定します。
- 表示する項目を「表示項目」、非表示とする項目は「非表示項目」に設定することで、必要な情報のみをフォーム上に表示できます。
- 「表示項目」右のアイコンで並び順を変えると、表示する項目の順番を変更することができます。

1. 申請
- ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
2. 再申請
- ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
3. 承認
- ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
4. 参照
- ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

1. 表示
- html上に画面アイテムを存在させます。
2. 非表示
- html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示

確認履歴			
処理日時	確認者	担当組織	コメント
2012/09/25 19:05	青柳辰巳	サンプル課11	

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

- 幅
- 画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナー」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。
- 高
- 画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナー」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。
- X
- 画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナー」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。
- Y
- 画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナー」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。

印影表示

画面アイテム「印影表示」は、フォーム上にワークフローの印影を表示するためのアイテムです。

詳細設定

最大表示列数

表示する印影の欄の列数を設定します。

並び順

印影の欄の表示する順番を設定します。

- 「ノード順」の場合は、フローの順番に左から表示します。
- 「ノード逆順」の場合は、フローの順番に右から表示します。

ノード名表示

印影欄の上に、ワークフローで設定しているノードの名称を表示するかを設定します。
非表示にした場合は、印影欄のみを表示します。

印影欄表示

印影欄の表示方法を設定します。
「全ての印影欄表示」の場合は、印影の押印の有無に関わらず、常にすべての印影欄を表示します。
「押印された印影欄のみ表示」の場合は、押印されている印影欄のみを表示します。

アイテム名

同一フォーム内で画面アイテムを識別するための名前を指定します。

画面の種類（行項目）

- 1. 申請
ワークフローの申請画面の時の表示タイプを設定します。
- 2. 再申請
ワークフローの再申請画面の時の表示タイプを設定します。
- 3. 承認
ワークフローの確認・承認画面の時の表示タイプを設定します。
- 4. 参照
ワークフローの参照画面の表示タイプを設定します。

表示・入力タイプ（列項目）

- 1. 表示
html上に画面アイテムを存在させます。
- 2. 非表示
html上に画面アイテムを存在させません。

表示タイプ：表示

申請	承認

アイテムサイズ・配置

フォーム内での表示の位置・高さ・幅を指定します。

幅
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の横の長さ(幅)をピクセル単位で指定します。

高
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の縦の長さ(高さ)をピクセル単位で指定します。

X
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの横位置をピクセル単位で指定します。

Y
画面アイテムとして指定した領域(「フォーム・デザイナ」画面上で赤い点線で囲まれる範囲)の左上頂点のフォーム左上からの縦位置をピクセル単位で指定します。



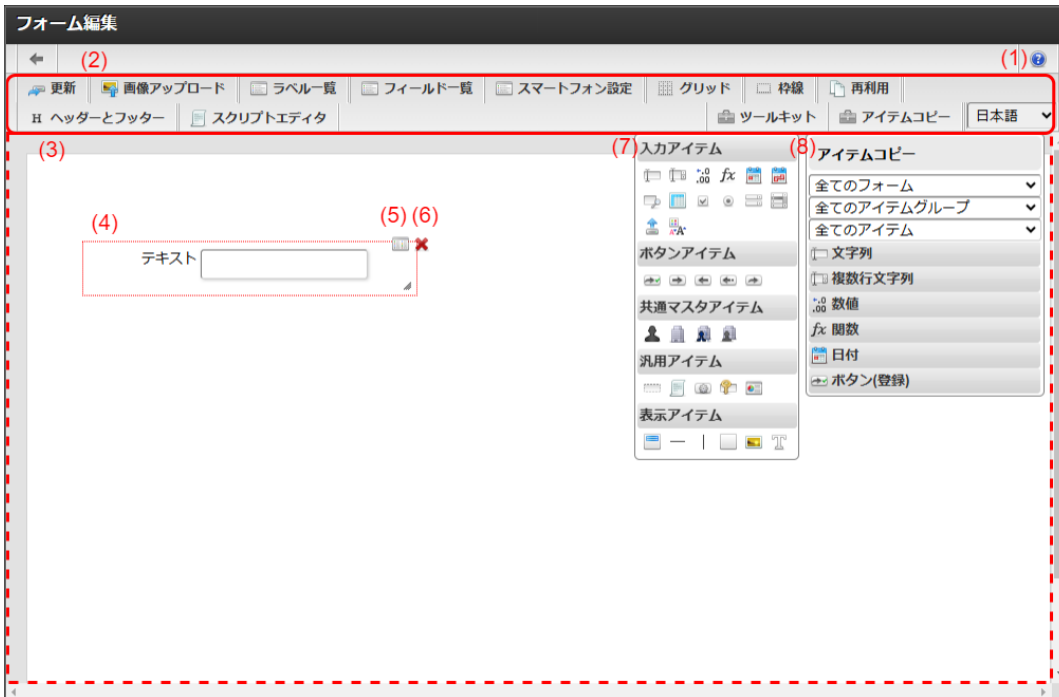
コラム

画面アイテムの仕様についての補足は「[アイテム仕様の補足](#)」を参照してください。

「フォーム・デザイナ」画面の各部の名称と機能

ここでは、IM-FormaDesigner for Accel Platformでの「フォーム・デザイナ」画面の各部の名称と、各ボタン・アイコンに割り当てられている主な操作を説明します。

フォーム・デザイナ



(1)ヘルプボタン

ヘルプ（この操作ガイド）を別ウィンドウで表示します。

(2)デザイナツールバー

「フォーム・デザイナ」画面上で、変更したフォームの保存（更新）やツールキットの表示（ツールキット）などを実行するときに各リンクをクリックします。

更新

編集中のフォームの内容を保存するときにクリックします。

新規作成の場合はフォームデータを新規に保存し、更新の場合は「フォーム・デザイナ」画面で表示している編集内容で上書き保存します。

保存完了後は再び「フォーム・デザイナ」画面が表示されます。

画像アップロード

フォームで使用する画像をアップロードします。

ここでアップロードした画像は、アプリケーション内で共有されます。同じアプリケーション内の異なるフォームでアップロードした画像を共有して利用できます。

アプリケーションに対してアップロードされている画像の一覧を表示します。

一覧に表示されている画像を、画像アイテムで選択し表示できます。

- ファイルの登録
 - 参照ボタンをクリックしアップロードする画像を選択した後、登録ボタンをクリックすることによりアプリケーションに登録されます。
 - アップロード時にファイル名の変更はできません。
- アップロード済みファイル一覧
 - アップロードされているファイルの一覧が表示されます。
 - アップロード済みのファイルを削除したい場合は、削除したいファイルの行の削除アイコンをクリックしてください。

ラベル一覧

配置済みアイテムのラベルを一覧で表示します。
 ラベルを持つ画面アイテムのみが一覧に表示されます。
 隠しパラメータ等のラベルを持たない画面アイテムは表示されません。

一覧は配置した順にリストの上から下へ表示されます。
 ひとつの画面アイテム内に複数のラベルを持つ場合は、同じアイテム名でラベル数分の行が表示されます。
 ラジオボタン等の入力項目に対して設定するラベルは、一覧には表示されません。
 画面アイテムのラベルプロパティで設定するラベルのみが表示されます。

- 一覧のロケール
 - 一覧では、設定可能なロケール分のラベルが一度に表示されます。
 - 設定可能なロケールは、アプリケーション情報で対象ロケールとして追加されたものです。追加されたロケールの数分、横方向に追加されていきます。
- ラベルの編集
 - ラベルは一覧上で編集可能です。
 - 編集したいラベルの表示されているセルをクリックすると、編集モードへ移行します。
 - ラベルを任意の値へ変更後、[Enter]キー、または[TAB]キーをクリックすることによって、編集内容が確定されます。

ラベルの編集を行った後、編集内容を確定した時点で値が保存されます。
 確定前にラベル一覧を閉じると、編集内容が破棄されますので注意してください。

フィールド一覧

フォームに配置されている画面アイテムの入力項目一覧を表示します。
 入力項目を持つ画面アイテムのみが一覧に表示されます。
 表示アイテム等の入力項目を持たない画面アイテムは表示されません。

一覧は、左上から右下への配置位置順 または 画面アイテムの配置順（レイヤー順）で表示できます。
 初期表示時は左上から右下への配置位置順です。
 レイヤー順は、通常配置順ですが、右クリックメニューの背面、前面を変更するとレイヤーの順番が変更され、並び順も変わります。

ひとつの画面アイテム内に複数の入力項目を持つ場合は、同じアイテム名とアイテムタイプで入力項目数分の行が表示されます。
 画面アイテム「明細テーブル」の入力項目は、列の数分表示されます。
 複数行設定済みでも、表示されるのは1行分のみです。

- 一覧のロケール
 - 一覧では、設定可能なロケール分のフィールド識別名が一度に表示されます。
 - 設定可能なロケールは、アプリケーション情報で対象ロケールとして追加されたものです。追加されたロケールの数分、横方向に追加されていきます。
- 内容の編集

- 一覧に表示されている内容は、タブインデックスとフィールド識別名のみ一覧上で編集可能です。
- 編集したい内容の表示されているセルをクリックすると、編集モードへ移行します。
- 内容を任意の値へ変更後、[Enter]キー、または[TAB]キーをクリックすることによって、編集内容が確定されます。

内容の編集を行った後、編集内容を確定した時点で値が保存されます。

確定前にフィールド一覧を閉じると、編集内容が破棄されますので注意してください。



コラム

フォームの実行画面で[TAB]キーを押すと、指定したタブインデックスの順番でフォーカスが移動します。明細テーブルにタブインデックスを設定する場合は、一つのテーブルの列に対して、連続したインデックスを付与するようにしてください。



コラム

タブ切替時のタブインデックスの指定

- タブ切替を利用する場合、タブインデックスはヘッダフォームとタブフォーム間でタブインデックスが重複しないようにしてください。
ヘッダフォームとタブフォームに重複した値が設定されている場合、タブインデックスに同じ値を設定されたヘッダフォームの項目、タブフォームの項目の順にフォーカスが移動します。

スマートフォン設定

「スマートフォン版」で表示した際のレイアウトを設定できます。

ここで設定したレイアウトは、「画面遷移設定」、または「フォーム遷移詳細編集」で「スマートフォン表示」が「スマートフォン版」となっている場合に有効です。

スマートフォン版で表示したときに表示する・しない、項目の並び順、スマートフォン用のラベル等を設定できます。

利用方法の詳細については、「[「スマートフォン設定」画面の各部の名称と機能](#)」を参照してください。

グリッド

フォームプレビューエリアにグリッドを表示します。

枠線

配置済みアイテムの枠線を常に表示します。

選択中の画面アイテムは、枠線の色が赤、それ以外の画面アイテムは黒で表示されます。

再利用

登録済みのフォームを読み込みます。

他アプリケーションや同じアプリケーションの履歴から、フォームの設定を読み込むことができます。

フォームの設定内容を読み込むため、読み込み後にフォームの情報を保存した場合は、編集中のフォームが上書きされます。

再利用一覧で選択した登録済みフォームの内容が変更されることはありません。

アプリケーションID等の検索条件を入力して検索ボタンをクリックすると、条件に一致するフォームの一覧が表示されます。

一覧の中から利用したいフォームのラジオボタンを選択後に決定ボタンをクリックすると、フォームを読み込み「フォーム・デザイナー」画面に反映します。

プレビューアイコンをクリックすると、該当フォームのプレビュー画面がポップアップで表示されます。

!

注意

同一ファイル名の画像ファイルがすでに存在する場合には、画像ファイルはコピーされません。
そのため、異なった画像が表示されることがあります。

ヘッダーとフッター

フォームにヘッダー、フッター、SharedResource設定をするための画面を表示します。

- ヘッダー設定

ヘッダーとフッター

ヘッダー設定

フッター設定

SharedResource設定

ヘッダー設定

☒

タイトル名 *

画面タイトル

戻るリンクを表示

☐

ヘッダーを固定

☐

▼ ボタン表示

左側

ボタン(処理モーダル)

+

追加

ボタン

セパレータ

設定

...

ボタン(処理モーダル) - 申請

☐

削除

フォームに配置

右側

ボタン(処理モーダル)

+

追加

ボタン

セパレータ

設定

設定

- ヘッダー設定
ヘッダー（タイトル部およびツールバー）の表示非表示を切り替えることができます。
- タイトル名
ヘッダーに表示するタイトルを設定できます。
- 戻るリンクを表示
戻るリンクの表示非表示を切り替えることができます。
戻るリンクは常にツールバーの左端に表示されます。
- ヘッダーを固定
有効にするとヘッダーを固定できます。
下にスクロールしても画面上部に常にヘッダーが表示されます。
- ボタン表示
ヘッダーの左側または右側に表示したい画面アイテムを設定できます。
 - 画面アイテム選択
各アプリケーション種別に応じた画面アイテムをセレクトボックスに表示します。
セレクトボックスに表示される画面アイテムは、以下の通りです。

画面アイテム	Forma（標準）	Forma（IM-Workflow）	BIS（BISフロー）	BIS（ワークフロー）
ボタン（登録）	✓	✓	✗	✓
ボタン（次へ）	✓	✓	✓	✓
ボタン（戻る）	✓	✓	✓	✓
ボタン（一覧へ戻る）	✓	✓	✓	✓
ボタン（一時保存）	✓	✓	✗	✓
ボタン（コピー新規）	✗	✓	✓	✓
ボタン（処理モダ	✗	✗ [1]	✗	✓
ル）	✗	✗ [1]	✗	✓
ボタン（一時保存モダ	✗	✗ [1]	✗	✓
ル）	✗	✗ [1]	✗	✓
ボタン（直接実行）	✗	✗ [1]	✗	✓
ボタン（直接中止）	✗	✗ [1]	✗	✓
ボタン（直接差戻し）	✗	✗ [1]	✗	✓
ボタン（イベント）	✓	✓	✓	✓
ボタン（インポート）	✗ [1]	✗ [1]	✓	✓
ボタン（エクスポート）	✗ [1]	✗ [1]	✓	✓

[1] ([1](#), [2](#), [3](#), [4](#), [5](#), [6](#), [7](#), [8](#), [9](#))

「ボタン（処理モダ

ル）」、「ボタン（一時保存モダ

ル）」、「ボタン（直接実行）」、「ボ

タン（直接中止）」、「ボタン（直接差戻し）」、「ボタン（インポート）」、「ボタン（エクス

ポート）」は、IM-BISを導入している環境であればご利用いただけます。

- 追加
セレクトボックスで選択した画面アイテムを追加できます。
- ソート
追加済みの画面アイテムの順番をドラッグ&ドロップで入れ替えることができます。
- セパレータ
有効にするとボタンの隣にセパレータが表示されます。
ボタン表示「左側」の場合は、有効にしたボタンの右側にセパレータが表示されます。
ボタン表示「右側」の場合は、有効にしたボタンの左側にセパレータが表示されます。
- 設定
画面アイテムのプロパティを表示します。
設定内容の反映タイミングは、フォームに配置した画面アイテムのプロパティと同様です。
- 「歯車」アイコン
「削除」と「フォームに配置」の2項目のメニューを表示します。
メニューをクリックするとクリックした行のボタン表示が消え、設定ボタン押下により設定が反映されま

- 削除
追加済みの画面アイテムを削除します。

- フォームに配置
追加済みの画面アイテムをフォームに配置します。
フォームへの配置順はアイテムの追加順に基づきます。

複数のアイテムをまとめてフォームに配置した場合、2つ目以降のアイテムから右下方向に少しずつずれて配置されます。

最後に追加されたアイテムが選択状態となって配置されます。

プロパティの「ヘッダーに表示」で表示させた画面アイテムをフォームに配置する場合、元々配置されていた位置に配置されません。

「ボタン表示」で追加された画面アイテム同様、フォーム左上の角に配置されます。

■ SharedResource設定



有効にすると同一画面を参照している他のユーザ情報が表示されます。また対象のリソースが更新された際には通知メッセージが表示されます。

画面の遷移方法が「画面遷移」の場合は各フォームのSharedResource設定が有効です。

画面の遷移方法が「タブ遷移」でヘッダーフォームがある場合はヘッダーフォーム、ない場合は1つ目のタブフォームのSharedResource設定が有効です。

対象画面は以下の通りです。

- アプリケーション種別が「標準」の場合
 - 編集画面
- アプリケーション種別が「IM-Workflow」・「BIS_WKF」・「BIS_BF」の場合
 - 起票からの申請画面
 - 承認画面
- ロック機能

有効にするとロック機能を利用できます。

ロックを解除できるのは、ロック取得ユーザとシステム管理者です。

ただし、以下の操作に関しては、他のユーザがロック中でも実行可能です。

- アプリケーション種別が「標準」の場合
 - 一覧からアプリケーションで登録したデータを削除
- アプリケーション種別が「IM-Workflow」・「BIS_WKF」・「BIS_BF」の場合
 - 引戻し
 - 案件操作によるノード移動
 - 案件削除
 - ジョブスケジューラによる実行処理
 - 処理対象者の変更や再展開



注意

ロックの自動解除について

ロック中でも実行可能な操作のうち、以下の操作を実行した場合、ロックは自動的に解除されます。

- アプリケーション種別が「標準」の場合
 - 一覧からアプリケーションで登録したデータを削除
- アプリケーション種別が「IM-Workflow」・「BIS_WKF」・「BIS_BF」の場合
 - 引戻し
 - 案件操作によるノード移動
 - ジョブスケジューラによる実行処理のうち、案件削除と処理対象者の変更や再展開以外の処理

なお、案件削除、処理対象者の変更や再展開、ジョブスケジューラによる案件削除・処理対象者関連の実行処理では、ロックは解除されません。

ロックが残ったままになった場合は、ロック取得ユーザまたはシステム管理者が手動でロックを解除する必要があります。



コラム

システム管理者がロックを解除する方法

システム管理者の「アプリケーションロッカー一覧」画面でロックの解除を行います。

操作手順は「[システム管理者操作ガイド](#)」の「アプリケーションロッカー一覧」を参照してください。

SharedResource設定機能のロックIDは、「テナントID@im_forma_designer:生成された一意キー」です。

ロック情報とロック中の画面との紐づけは行えないため、上記のロックIDのロックを一律で解除する、または

「im_serialized_lock」テーブルを確認し、上記のロックIDかつ「create_user_cd」がロック取得ユーザのロックを解除してください。



コラム

画面を経由せずに登録データ情報管理API「ApplicationDataManager（JavaEE開発モデル）」

「FRApplicationDataManager（スクリプト開発モデル）」を利用して

アプリケーションデータの更新・削除を行った場合は、SharedResourceに関する処理は行われません。

- 表示位置
同一画面を参照している他のユーザ情報の表示位置を設定します。



コラム

IM-BIS を導入している環境の場合、「ヘッダーとフッター」の横に「アクション設定」が表示されます。

アクション設定を利用すると、外部連携や入力モード変換などが利用できます。

詳細は「[IM-BIS 業務管理者操作ガイド](#)」-「[アクションを設定する](#)」を参照してください。

スクリプトエディタ

フォームに配置済みの下記画面アイテムのスクリプトを、クライアントサイド JavaScriptに関する開発に特化したエディタを使用して編集できます。

スクリプトエディタは別画面で表示します。

- スクリプト
- ボタン（イベント）

「確定」を押下することで、アイテムプロパティへ値を反映します。

フォームに配置済みの対象画面アイテムをすべてタブ表示します。

特定のアイテムのみタブ表示したい場合は、各アイテムのアイテムプロパティ上の「スクリプトエディタを開く」からスクリプトエディタを表示してください。

スクリプトエディタでは配置した画面アイテムのクライアントサイドスクリプトAPIを補完できます。

補完できるAPIについては、「[IM-BIS 仕様書](#)」-「[クライアントサイドスクリプトAPI](#)」を参照してください。

コラム

補完はスクリプトエディタ表示時に配置されていた画面アイテムが対象です。

スクリプトエディタ表示後に画面アイテムを配置した場合は、スクリプトエディタを閉じ、再度表示することで補完対象にできます。

ツールキット

種類によって分類された画面アイテムが格納されているツールキットを表示します。

ここより各画面アイテムをドラッグ&ドロップすることにより、フォームへ画面アイテムを配置していきます。

「ツールキット」をダブルクリック、または「ツールキット」のアイコンをクリックすることにより「ツールキット」が非表示になります。

画面アイテムの分類をクリックすることにより開閉します。

また、各画面アイテムの上にカーソルを合わせることで、ツールチップで画面アイテムの名称が表示されます。

アイテムコピー

同一アプリケーション内の他のフォームで配置済みの画面アイテムを表示します。

他のフォームと同じIDの画面アイテムを配置することにより、フォーム間で画面アイテムのデータを共有できます。

「アイテムコピー」を非表示にしたい場合は、「アイテムコピー」をダブルクリック、またはアイテムコピーアイコンをクリックします。

セレクトボックスから画面アイテムが配置されたフォームとアイテムグループ、画面アイテムを選択してコピー対象の画面アイテムを検索します。

アイテムグループをクリックすることにより、グループ内の画面アイテムの表示と非表示を切り替えます。

また、アイテムグループ下に表示された、各画面アイテム名の上にカーソルを合わせることで、ツールチップで画面アイテムの名称が表示されます。

ヘッダーに表示された画面アイテムを配置する場合、ヘッダーではなくフォームに配置されます。

再度ヘッダーに配置したい場合は、各画面アイテムのプロパティから変更できます。

ロケール変更

フォームのプレビュー、および、アイテムプロパティで入力・表示するロケールを選択します。

ロケールを変更すると、フォームプレビューエリアに表示されている画面アイテム内の、言語によって表示が変更できるプロパティ項目の値が選択されたロケールの値で表示されます。

ロケール変更で選択可能な値は、アプリケーション登録で選択したロケールです。

作成されたフォームを利用する時には、フォームで設定された各画面アイテムのロケールの中から、ログインユーザのロケールのものが表示されます。

コラム

ロケール変更を行った場合に、表示が切り替わる項目は利用時のラベル、アイテム名等の設定値です。

「フォーム・デザイナ」画面の各項目、プロパティの項目名等は変更されませんので、注意してください。



コラム

「フォーム・デザイナー」画面を表示した環境に IM-BIS for Accel Platform が導入済みの場合には、ヘッダーとフッターの右に「アクション設定」ボタンが表示されます。
詳細は「[IM-BIS 業務管理者操作ガイド](#)」を参照してください。

(3) フォームプレビューエリア

作成中のフォームのプレビューです。
配置済みアイテムの位置や見た目などが、実際にフォームを利用する時と同じように表示されます。

(4) 配置済みアイテム

フォームへと配置されている画面アイテムです。
操作方法の詳細は「[IM-FormaDesigner 作成者操作ガイド](#)」を参照してください。

(5) プロパティ（アイコン）

配置済みアイテムの詳細設定を行います。
配置済みアイテムをダブルクリックするか、プロパティ表示アイコンをクリックすることによって表示されます。
詳細は各画面アイテムヘルプを参照してください。

(6) 削除（アイコン）

配置済みアイテムを削除します。

(7) ツールキット

各種画面アイテムが格納されています。ここより画面アイテムをドラッグ&ドロップし、フォームへ画面アイテムを配置していきます。

画面アイテムの複数選択

「ctrl」キーを押しながら画面アイテムをクリックすることで、複数の画面アイテムを同時に選択します。
複数選択した場合は、画面アイテムの枠の色が青色で表示されます。



コラム

お使いのOSがWindows以外の場合は、以下のメニューが表示されます。

- 複数選択
画面アイテムを複数選択できる状態にします。
- 複数選択解除
画面アイテムを複数選択できる状態を解除します。

画面アイテムを複数選択することにより、以下の操作を行うことができます。

- ドラッグによる複数の画面アイテムの位置移動
- 画面アイテムの整列
- 選択状態の画面アイテムを一括コピー
- 選択状態の画面アイテムを一括削除

(8) アイテムコピー

同一アプリケーション内の他のフォームで配置済みの画面アイテムが格納されています。

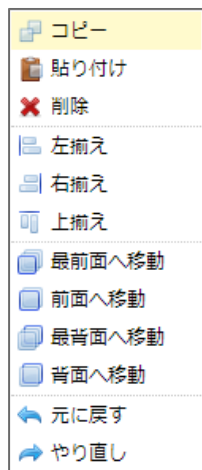
ここより画面アイテムをドラッグ&ドロップでフォームに配置できます。

配置済みアイテム

配置済みアイテムは、コンテキストメニューを利用して、コピー、貼り付け、削除などの操作ができます。

コンテキストメニューを開くには、配置済みアイテムにカーソルを合わせて右クリックします。

操作方法の詳細は「[IM-FormaDesigner 作成者操作ガイド](#)」を参照してください。



- コピー
選択した画面アイテムをコピーします。
- 貼り付け
コピーした画面アイテムを貼り付けます。
- 削除
選択した画面アイテムを削除します。
- 左揃え
選択中の画面アイテムに入力フィールドがある場合、選択中の画面アイテムの中で一番入力フィールドが左端にある画面アイテムに入力フィールドの左端を合わせます。
入力フィールドがない場合は、コンポーネントの左端を合わせます。
- 右揃え
選択中の画面アイテムに入力フィールドがある場合、選択中の画面アイテムの中で一番入力フィールドが右端にある画面アイテムに入力フィールドの右端を合わせます。
入力フィールドがない場合は、コンポーネントの右端を合わせます。
- 上揃え
選択中のすべての画面アイテムの高さを、一番高さが高く設定されている画面アイテムに合わせます。



注意

左揃え／右揃え／上揃えの機能は、アイテム幅が足りずに折れて表示されている画面アイテムには対応していません。

また、独自で作成した画面アイテムに関しては動作の保障はしません。

- 最前面へ移動
選択した画面アイテムを最前面へ移動します。
- 前面へ移動
選択した画面アイテムを前面へ移動します。
- 最背面へ移動
選択した画面アイテムを最背面へ移動します。
- 背面へ移動
選択した画面アイテムを背面へ移動します。
- 元に戻す

操作を元に戻します。

- やり直し
元に戻した操作をやり直します。

「スマートフォン設定」画面の各部の名称と機能

ここでは、IM-FormaDesigner for Accel Platformでの「スマートフォン設定」画面の各部の名称と、各ボタン・アイコンに割り当てられている主な操作の説明をします。

スマートフォン設定

スマートフォン設定

確定

プレビュー

(1)

(2)

(3) — 水平線

(5)

(6)

(7)

(4) アイテム名	ラベル編集切替	ラベル[日本語]	ラベル[英語]	ラベル[中国語 (中華人民共和国)]	設定
ヘッダー		稟議書	Request for decision	请示报告	
コンテンツ					
稟議番号		稟議番号:	Request number for decision:	请示编号:	✓
稟議件名		稟議件名:	Request subject for decision:	请示标题:	✓
支払金額	[前]	支払金額:	Payment:	支付金额:	✓
稟議内容		稟議内容:	Request content:	请示内容:	✓
成果予測		成果予測:	Outcome prediction:	成果预测:	✓
水平線					🗑️
ファイルアップロード					✓
ラベル					🚫
フッター					
ホーム					✓
ボタン(登録)	申請	申請	Apply	申请	✓
ボタン(一時保存)		一時保存	Save temporarily	临时保存	✓
ボタン(一覧へ戻る)		一覧へ戻る	Back to list	返回一览	✓

(1)確定ボタン

スマートフォン設定の編集内容を保存します。

(2)プレビューボタン

スマートフォンでのプレビューを表示します。

(3)水平線

「水平線」ラベルを下のアイテム一覧にドラッグ&ドロップすると、水平線を挿入することができます。

(4)アイテム名

「スマートフォン表示」で表示できるアイテムの一覧を表示します。

アイテム名をドラッグ&ドロップすると、スマートフォンでのレイアウトの表示順を入れ替えることができます。

「ボタン（登録）」など、複数のラベルを設定できるアイテムに対して、編集対象のラベルをクリックで切り替えることができます。

(6)ラベル

スマートフォン表示のときのアイテムのラベルを設定します。
ヘッダーについても、クリックすると、ヘッダーに表示するラベルを編集できます。

(7)設定

スマートフォン表示のときに、対象のアイテムを表示するかを設定します。

- ✔ の場合は、スマートフォン表示で表示されます。
- ⊘ の場合は、スマートフォン表示では表示されません。

表示タイプを設定するには

表示タイプは「どの画面の時に」「入力、または表示ができるか」を設定します。
それぞれのパターンごとに下記の通りに設定する必要があります。

処理画面の名称と、ワークフローでの適用範囲

▼ 表示タイプ

各処理画面での表示・非表示設定を行ってください

	表示		非表示
	入力可	参照	
申請 *	☒	☐	☐
再申請 *	☒	☐	☐
承認 *	☐	☒	☐
参照 *	☐	☒	☐

申請

- 申請者が新規に起票（申請）した時の設定です。
- 適用範囲：申請（起票案件）、未申請、一時保存

再申請

- 申請者が一度申請後に、申請内容の差し戻し等で同じ案件番号の申請書への入力・編集を行う時の設定です。
- 適用範囲：再申請

承認

- 承認者が承認を行う時の設定です。
- 適用範囲：処理（承認）、確認

参照

- 承認者や確認者などが申請書の詳細情報を参照する時の設定です。
- 適用範囲：処理詳細（ワークフローの処理済の詳細アイコンで表示する画面）、確認詳細、過去案件詳細、参照

表示・入力可

設定された画面を表示したときに、画面アイテムの値の表示・入力ができます。

表示・参照

設定された画面を表示したときに、画面アイテムの値の表示ができます。

画面アイテムの値を入力・変更することはできません。

申請画面の場合には、あらかじめ表示する値を設定しておく必要があります。

他の画面アイテムから関数等を利用して値を参照することができます。

非表示

設定された画面を表示したときには、画面アイテムを表示しません。

他の画面アイテムから関数等を利用して値を参照することはできません。

パターン別に入力・表示を設定する

申請者が入力する項目として利用する

- 申請を「表示・入力可」に設定します。
- 入力チェックを行う場合は、画面アイテムのプロパティの「入力チェック」を別途設定します。

承認者が入力・変更する項目として利用する

- 承認を「表示・入力可」に設定します。
- 同じ項目（画面アイテム）について、申請者も入力・変更ができるようにするには、申請を「表示・入力可」に設定します。
- フォーム編集後に、ワークフロー上のどの承認者が入力・変更できるかを「追記設定」で設定します。